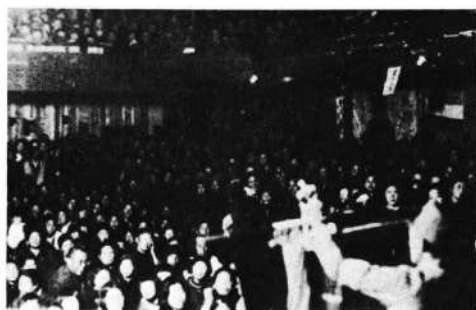


近

代



公楽館のにぎわい

一、明治 大正の矢吹

戊辰のつめあと

一九世紀の半ば、老中水野忠邦がその職を追われ、幕藩体制の危機がいよいよ深まりつつあった天保十四年（一八四四）、オランダ国王が将軍に開国を勧告する国書を送ってきた。これに始まり、フランス・イギリス・アメリカ・ロシアが相次いで来航し、開国を迫った。鎖国政策をとっていた幕府は、当初外国船を退去させることだけに心を傾け、海岸防禦の命令を発して外国船来航に備え、各地より人員を動員し、ことに当らせようとした。

アメリカのペリーが率いる軍艦四隻は、嘉永六年（一八五三年）、大統領の国書をつきつけ、もし拒むなら、すみやかに一戦に及び、勝敗相決すべし」とおとし、翌年、軍艦七隻で神奈川沖に来泊し、回答を迫った。武力に屈した幕府は、日米和親条約を結ぶことがなかった。オロシア人（ロシア人）が矢吹を通過したのもこのころである。やがて、開国により幕府の独裁は揺らぎ、経済の混乱などあいまって、攘夷から倒幕運動へと激しく揺れ動く。そして、慶応三年（一八六七）ついに幕府はその政權を天皇へ渡すことになる。

明治元年（一八六八）、薩長軍に対する幕府軍は、一月、島羽・伏見で交戦し、敗北する。慶応四年正月、誤定嘉彰親王が、總裁頼朝親王より慶喜の追討令を出す。二月三日天皇の親征が布告され、政府軍（官軍）は江戸城総攻撃に向った。四月十一日、江戸城総攻撃は中止され、江戸城は天皇政府軍に明け渡され、降伏に反対した幕臣は彰義隊を名乗って上野の山において最後の抵抗をしたが、五月十五日に全滅し、徳川家は静岡七〇万石の一大名に落され、ここに徳川幕府は滅びたもの、東北地方を中心とする二十余藩は、奥羽越前藩同盟をつくり、会津を助け、あくまで抵抗することを決めた。これに対し、天皇政府は東北諸藩を討つべく兵を進め、ここに戊辰の内乱が始まる。壮烈な白河攻防戦は二カ月にわたり、街道の宿場は戦火で焼失し、矢吹の宿もこの時に焼かれた。明治二年（一八六九）一年半にわたる日本全土をおおった内戦も、北海道の榎本軍の降伏（北海道函館戦争終り）により、天皇政府が日本におけるただ一つの政府となった。



黒 船 の 図

嘉永6年(1850)海岸警備に出動した会津藩士が書き写したもの。(福島県史より)

海岸防禦に付言上書写

嘉永三年（一八五〇）三月九日

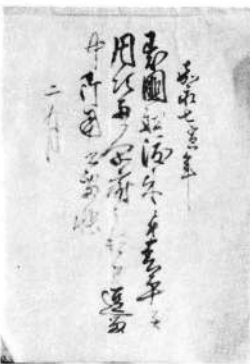
ロシアがわが国の北方にあらわれてから、幕府を始め諸藩は海浜の防禦策を進めた。その後、アメリカ・イギリスの諸艦がたびたび日本近海にあらわれ、開港を迫るようになって、いっそうその防備は嚴重となった。



異国船渡来に付春平並周次 兩人出府被仰付逗留中御用書留帳

嘉永七年（一八五四）二月、領主松平万太郎の指図で、中野目村屋戸谷春平並びに中畑村庄屋小針亮右衛門の二人は、二月六日江戸につき、外国船警備の使用人小林新兵衛の御用係を勤めた。しかし、この時は外国船が現れなかったため、二人は二月二十四日に江戸をたって帰村した。これは当時の日誌である。

オロシア人矢吹を通る 外国の船が来航して幕府に和親条約を迫ったので、幕府はやむなく調印し、開港した。そして、この後の通商条約によって、外国との貿易が始まった。その結果、外国人が日本に来るようになった。安政七年（一八六〇）二月二十一日、オロシア人男三人女二人が、江戸から松前へ行く途中、矢吹宿の飯本陣横川栄助宅で、休憩昼食をとっている。当時は御馳走御取締役として、郡奉行一人、代官一人、米見役三人、外に足軽手伝いとして近在庄屋外一人が道々の警備にあたった。



白河口の攻防戦

今度東山道鎮撫使
御發向付歳八十以上者
及艱寡孤獨貧窮者並
民共八廣く御賑恤可被遊
忠臣孝子義夫節婦等
聞有者も夫々御褒美
可被爲在

思召候間東山道諸國役
人共精々取調若取_レ以急
御本陣_ニ可申出候但左
取調_ノ儀付役人共自己
愛憎_ヲ依性最負_シ事
有_レテ嚴重_ニ御沙汰_ヲ被
為存_ニ心滑達_ニ様可致
有_レ也

東山道鎮撫總督
正月
戊辰
執事

東山道詔圖

侵人共証

東山道鎮撫總督布告 天皇に政權がうつり御一新になって、東山道鎮撫總督が派遣され 忠臣・孝子・義夫・節婦があれば、よく調査して御褒美を下さる旨が東山道諸國の宿場地や村の役人に通達された。また、キリシタンはなお禁制で、人間たのものは五倫の道を正しくするようとの御定書などもある。

任世榮、陳國治

此度東山道狹絕無徑之
初命子家之次弟者先達而
朝廷御製爲正德通鑑得共連國偏士
至候加者自然行而兼成或難計一信而
又諸國之情實。河。萬民流落之苦極
焉政是

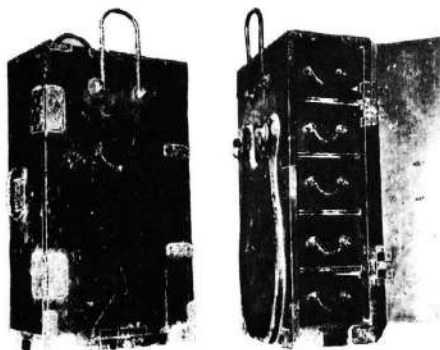
領銜之末。俱德川文配地者勿論。諸藩
領銜之末。近年來皆改帶。其在外子細
有之聲名無遠慮水神。可憐之命既之上
公年一歲量及俱同心清達無二樣。於餘事

五月

東山道領撫德督

同
副總督

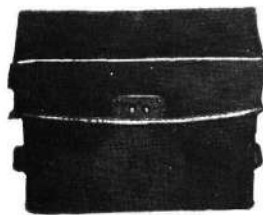
農商へ布告 朝廷よりのお触れによって、各々
安んじて渡世が出来よう、苦しみのあるものや
苛政に苦しんでおるものは、遠慮なく本陣へ訴え
出るようにとの布告である。



会津兵の彈藥箱

戊辰戦役当時の会津兵の弾薬箱で、弾を撃ちたした会津兵は箱を残して退いた。その時、中畑村周辺の百姓80人ほどが人夫としてかりだされたといわれる。

御制札 戊辰戦役が終ったので、「天皇の御配慮によって、賊にくみした者でも、真に悔悟して尽忠の志あるものは、寛大な思召しで御容赦ある故、心得違いなきように」との旨を、総督府から出された訓札である。



彈差入れ

戊辰戦役当時の弾薬入れで、棚倉藩士が使用したものである。

兵糧米渡方請取帳

明治元年（一八六八）（兵糧奉行）



薩州小荷駄方人足召上

矢吹宿に入ってきた官軍は、人足を集めるために、薩州藩の小荷駄方から御用仰出しがあった。その時の覚帳が矢吹町今出屋に残っている。

墓碑名

誠忠院勇功賢武居士
仙台藩本内幸三郎直久墓

慶応四戊辰六月十二日
白川金勝寺口大谷地村石切山役戦

五人打取後玉に当りて死行年二十四才



戦火のつめあと

同盟軍の戦死の墓

白河攻防戦に敗れた会津・仙台藩兵は矢吹宿まで退いた。慶応三年（一八六七）六月十六日、仙台藩水沢支藩の戦死者一六名は、矢吹の大福寺に葬り、仙台藩士本内幸三郎直久を中畑新田の幸福寺に葬った。東軍の参謀増田歴治は矢吹宿を焼き払って須賀川に引き揚げた。墓は現在無縁仏となつて、当時の名残りをとどめている。



民兵からす組

戊辰戦役に編成された仙台藩の細谷十太夫を隊長とする六〇名ばかりのゲリラ隊のことで、白河城奪還を目ざす同盟軍にさきがけて、第一線で活躍した。

敗れながらも矢吹の宿場などで官軍の休息所を夜襲し、非常におそれられた。当時、細谷ガラスと十六さきげなけりや官軍たかまくらとたたわれた。カラス組の服装は黒装束であり、十六さきげとは棚倉脱藩の一六人からきたものである。



細谷十太夫の肖像

御一新

江戸城惣攻撃予定の政府は明治元年（一八六八）三月十四日、府前は「五ヶ条の誓文」を発表した。「広く会議議決し、万機公論ニ決スベシ」に始まるこの誓文は、公卿や大名や藩士の「公論」を認めたにすぎず、一般の人々を旧来の压制から解放する宣言ではなかった。そればかりか、この内容は一般の人々には全く伝えられず、同じ日に村々には、五枚の立て札（五榜の立札）を太政官布告として立て、封建徳義を守ることを命じ、徒党・強訴・逃散・キリスト教を禁じ、今までの暴政と何ら変らないことを示した。

「御一新」といい、新政府に期待を寄せ、歓迎していた人々は、その期待を裏切られ、各地で「世直し」一揆が起っている。

明治末年春、大久保利道は岩倉視視に於て手紙で「ちかごろの訴訟を聞くに王政復古をありていかうの文句なきのみならず、はなはだしきにいたつては、旧幕府の政治よりも困苦するといふことはまき放置すれば、いかに離反するかもはかりがたい」と書いてゐる。また木戸孝允も大久保へあてて「このまようち捨てておいては沸騰は目前のこと……」と書いてゐる。これを押えるには、中央集権の強化以外になつた。

明治三年（一八六九）大名が支配する土地と人民を天皇に返すという「版籍奉還」を断行し、ついで明治四年廢藩置縣を行い、矢吹の大部分は白河県に入った。これ以後、政府は封建支配を中央集権の天皇專制支配につくりかえる改革を次々に行い、四民平等・学制と施定・徴兵令そして地租改正へと続いたのである。

五カ条の誓文と五榜の立札
定

きりしたん類宗門之儀は堅く御制禁たり。若不審なるものこれあらば其筋の役所江申出べし。御不び下さるべく事。

慶応四年三月 太政官



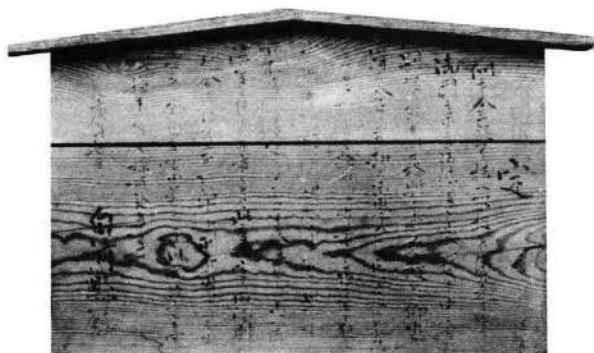
儒教道德をといた立札



氏子の札



明治元年(1868)神仏分離令が出され、これによって廃仏棄釈の運動が起り、神社と寺院の間に争いが起ったりした。さらに、神道の国教化が進み、神社の格付も行われた。各村には、村社によって氏子札が出された。また、キリスト教についても、禁止の高札を立てたことは前記のとおりである。



白河県庁銘のある高札（明治3年7月）

行政のうつりかわり

年 月 日	村 名	元治元年2月 (一八六四)	元治元年4月 (一八六四)	慶応3年8月 (一八六七)	明治元年4月 (一八六八)	明治元年6月 (一八六八)	明治2年2月 (一八六九)	明治2年8月 (一八六九)	明治4年11月 (一八七二)	明治4年11月 (一八七二)	明治8年12月 (一八七五)	明治9年8月 (一八七六)
	大和久村	塙 陣屋	幕 府 領	佐久山藩	白河民政取締所	守山藩民政取締所	白河	白河	二本松	福島	福島	福島
	須乗村											
	須乗新田村	白河藩	幕府領	小名浜代官所	白河民政取締所	守山藩民政取締所	白河	白河	二本松	福島	福島	福島
	柿之内村											
	松倉村	阿部家	幕府領	小名浜代官所	白河民政取締所	守山藩民政取締所	白河	白河	二本松	福島	福島	福島
	三城目村											
	三城目新田村	松平信濃守	中畑陣屋	伊達陸奥 守預り	白河民政取締所	守山藩民政取締所	白河	白河	二本松	福島	福島	福島
	明岡村											
	明岡新田村	幕府領浅川陣屋	中畑陣屋	伊達陸奥 守預り	白河民政取締所	守山藩民政取締所	白河	白河	二本松	福島	福島	福島
	矢吹村											
	矢吹新田村	幕府領浅川陣屋	中畑陣屋	伊達陸奥 守預り	白河民政取締所	守山藩民政取締所	白河	白河	二本松	福島	福島	福島
	中畑新田村											
	中畑村	幕府領浅川陣屋	中畑陣屋	伊達陸奥 守預り	白河民政取締所	守山藩民政取締所	白河	白河	二本松	福島	福島	福島
	堤村											
	大畑村	幕府領浅川陣屋	中畑陣屋	伊達陸奥 守預り	白河民政取締所	守山藩民政取締所	白河	白河	二本松	福島	福島	福島
	神田村											
	中野目村	幕府領浅川陣屋	中畑陣屋	伊達陸奥 守預り	白河民政取締所	守山藩民政取締所	白河	白河	二本松	福島	福島	福島

行政のうつりかわり

明治元年4月………民政取締所発足。

〃 5年4月………大区小区制による区会所となる。

〃 12年1月………郡制が布かれ、戸長役場制となる。

新田村は整理され、それぞれ本村に加わる。

明治21年4月25日、市制・町村制が公布され、明治22年4月1日町村制が実施された。

この時、矢吹町・中畑村・三神村が誕生した。

（幕末から明治22年までの経過は年表の通り）

県大区小区郡村編制表

年月日 村	明治5 (一八七二)	明治7 (一八七四)	明治8 (一八七五)	明治9 (一八七六)	明治10 (一八七七)	明治10 (一八七七)	明治12 (一八七九)	明治12 (一八七九)	明治18 (一八八三)
大和久村 三城目村 三城目新田村 須兼村 須兼新田村 松倉村 松倉新田村 柿之内村 中畑村 大畑村 堤村 中野日村 神田村 明岡村 明岡新田村 矢吹村 矢吹新田村 中畑新田村	福島県白河郡 第一新城区 第六小区 福島県第6大区 第2小区東内会 福島県第6大区第5小区	福島県白河郡 第十三区小田川会 大区制廃止	郡・区制変更 福島県白河郡第九区(会所未設)	福島県となる 松倉村と合併	三城目村と合併 須兼村と合併	福島県白河郡 岩瀬郡 福島県・郡界変更により 白河郡に編入	郡区町村編制法により 区制廃止 郡役所新設	中畑新田村 大和久村戸長役場 三城目村 戸長役場 松倉村戸長役場 柿之内村 白子村戸長役場 中畑村戸長役場 中野日村 戸長役場 矢吹村戸長役場	矢吹村戸長役場

西戶河郡 明國新田村
戸長申付候事
但准等外四寺
明治十五年三月廿日
福島縣

戸長役場時代の辞令（明治12年3月27日）
旧三神地区

任福島縣出羽朝松
福島縣寄島官正位村上朝朝奉

漆田文之助

明治十六年四月二日



戸長役場時代の辞令（明治16年4月2日）
柿之内村は岩瀬郡管内であった。

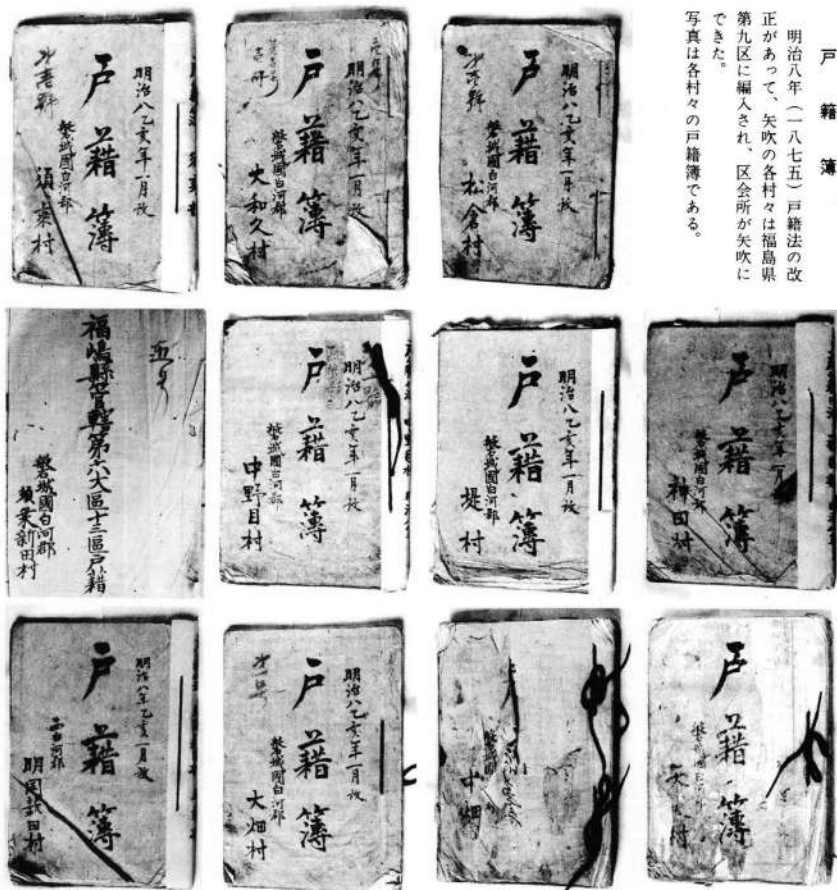
第九区白河郡矢吹町（明治八年）

福壽縣官轄
葉九區白河都矢
明治九年乙未六月

石川郡大畑村農
青木政之助
大畑堤二村戸長
付帳事
明治七年五月
磐前縣廳
戸長役場時代の辞令
大畑村・堤村
(明治七年五月四日)

戸籍簿

明治八年（一八七五）戸籍法の改正があつて、矢吹の各村々は福島県第九区に編入され、区会所が矢吹にできた。
写真は各村々の戸籍簿である。



人 口 と 戸 数 (明治19年12月31日現在)

村 名	矢 吹 村	中畑新田村	大和久村	柿之内村	中 畑 村	大 畑 村	松 倉 村
人 口 (人)	1 0 7 1	3 0 9	3 1 9	5 5 7	1 1 6 4	1 1 4	2 4 1
戸 数 (戸)	1 9 1	5 0	5 0	9 7	1 7 5	1 8	3 6
村 名	三城目村	須 乗 村	神 田 村	堤 村	中野目村	明 新 村	
人 口 (人)	9 2 2	2 1 7	1 4 7	1 1 9	1 4 8	1 8 8	
戸 数 (戸)	1 3 6	3 0	2 3	1 8	2 4	2 8	

徴兵令状と兵卒辞令

明治六年（一八七三）徴兵令が公布された。当時は官吏一家の戸主、嗣子・承祖の孫、独子・独孫及び父兄に代って家をつとめる者は兵役を免がれる定めであったが、後には一切服役免除をなくし、国民皆兵となった。写真は明治八年（一八七五）入隊の令状と兵卒の辞令である。

徴兵令状



兵卒辞令



地租改正(地券)



地租改正(地券)

明治六年（一八七三）七月二十八日に地租改正条例が公布されて、民有地に地券を交付し、地租を地価の百分の三と定めて、土地所有者より金納させた。明治十年からは百分の二・五に改正された。



明治九年地租改正事務取扱
申付けられた令書
(第九会所)



地籍絵図ほか（明治時代）



明治天皇東北御巡幸

明治天皇は国内の民情視察のため、明治九年（一八七六）東北を巡幸された。摂氏二八度という暑さのなか、午前十時過ぎ矢吹に到着、古川屋旅館佐久間光之助方で昼食をとった。休息の時に、学区取締大森至教員らが詩歌・俳句などを献上した。そして、十二時十五分に矢吹を出発、笠石に向かわれた。

（写真は古川屋旅館）



旅館「古川屋」

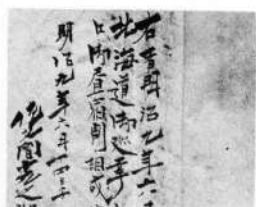
御紋章入飯茶碗

明治9年、東北巡幸のとき、明治天皇の昼食に使われた御飯茶碗を、記念として下賜されたもの。



昼食宿割帳

明治天皇巡幸の際の昼食宿割帳の写しで、お供の者は二三〇名もあり、宿を分散して昼食をとった。



令書 明治9年、明治天皇東北通幸の節、奉迎人取締道路掃除世話掛人を申し付けられた令書である。

道路ふしん褒状

明治十四年（一八八一）明治天皇巡幸通幸のとき、道路の修繕に尽したため、県から賞状を受けた。

磐城國西白河郡

矢吹村



文明開化

新政府は、殖産興業などの新政策とともに、先進国の新しいことや進んだことを取り入れ、諸外国と肩を並べ、資本主義導入のために、産業技術・経済制度を移植して、在来の固有産業の後進性を急速に乗り越えようとした。

「身ヲ立テルノ財本」として「学制会」が出され、「邑に不学の戸なく、家に不学の人なくしめん事を期す」(学制の「被仰出書」と、村々に初めて学校がつくられ、富国強民主義の文化政策が「文明開化」として進められ、国民生活の中にも、洋風のもの、交通・通信機関など、いちじるしく近代化する。

こうして、「東京」を中心とした文明開化の波は、やがて矢吹の地にも大きな変容をもたらすことになる。

はじめての学校

明治五年(一八七二)八月、学制が公布されたので、翌六年一月の中野目小学校と三城目小学校が創設された。六月には、矢吹小学校を大福寺の一部に創設し、翌七年九月には、中畑小学校が創設された。

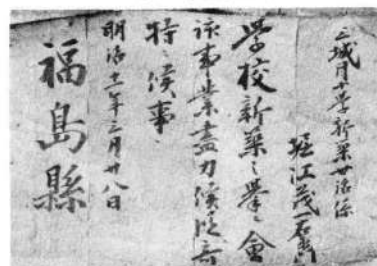
当時は、七歳ごろから男女の別なく、下等小学校八級に入学した。学級制は下等小学校と上等小学校の二段階になっていた。それぞれ八級に区分され、六か月間で一級を終了し、定期試験によって進級することになっていた。校舎建築費や教師の俸給その他の一切の費用は、すべて学区内負担で、生徒は授業料を納めるものとされた。大半の費用は有志や父兄の寄附によってまかなわれた。



丸山小学校卒業証書



中野目小学校卒業証書



三城目小学校新築に際しての感謝状(明治11年)



明新分校 中野目小学校は明治40年4月廃校した。この校舎の建材を用いて、村立三城目小学校の明新季節分校を建築した。



下等小学校下級卒業証書(明治12年)

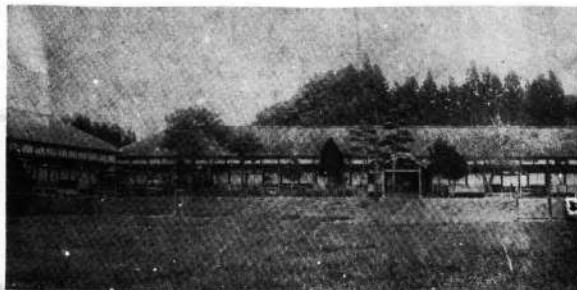


学校山の遠景
旧三城目小学校の跡地で、学校山の名で親しまれている。

矢吹小学校

明治六年、大福寺境内に仮校舎を新築し、矢吹小学校と称した。

明治三十四年、現在の矢吹小学校所在地に校舎を新築して、移転した。この写真はその頃のものである。



中畑小学校新築願書（明治9年）



祝開校

明治9年10月19日小針七左衛門の祝詞



旧中畑小学校校舎
（明治9年〜大正2年）

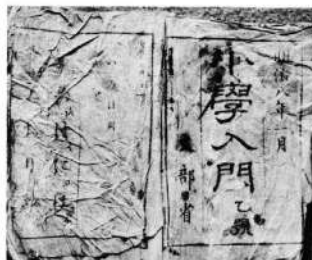


小学校読本

入門教科書

初めて就学する生徒の入門教科書

明治八年（一八七五）



勸業のあゆみ

士族開墾



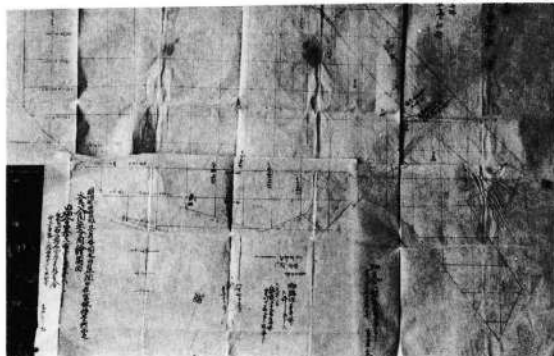
明治十七年ころ建築の
士族開墾の民家
(昭和四十八年十月撮影)
中畑加藤方。現在には使用していない。



県知事日下茂雄宛に出された増開墾地無代価御下渡願
(明治26年6月)



釜ヶ入開墾図面



八幡原開墾

明治維新の急速な世の移り変わりのなかで、失業した各藩士たちに職を与えるため、士族授産の政策がたてられた。

当地域でも、明治十五年（一八八二）から中畑村八幡原・滑津村滑津原・泉崎村十軒原に棚倉・高田・二本松・天童の各藩の藩士たちが入植した。中畑村八幡原開墾地約八ヘクタール、既墾地約五三ヘクタールに高田藩士五家族が入植した。この内四家族が現在も営農を続けている。



身元書

明治17年（1884）4月，身元書を添えて県令三島通庸宛出された開墾所移住願。これは八幡原開墾地に入植した加藤成内が出したものである。



開墾所移住願



馬耕器拝借願

八幡原開墾地に入植した高田藩士たちが連名で，明治19年（1886）2月，馬耕器拝借願を県令赤司欽一に願い出ている。

馬耕は明治13年（1880）安植開墾所が勧業局から機械を借りて使用したのが本県で初めてであり，一般農家では田畑も狭かったので，なかなか普及されなかった。それにしても，当時馬耕器を使用しようとした士族開墾者の進取の気合いが感じられる。





建白書

明治天皇が東北巡幸の折、明治九年（一八七六）、矢吹ガ原の広大な地域の開墾について着目されたといわれている。宮内省は鏡石村に直営農場（後の岩瀬牧場）を創立し、矢吹ガ原開拓の第一歩が踏み出された。ついで、明治十八年（一八八五）大和久の農民星吉右衛門が初めて天栄村羽鳥地内に堰堤を設け、鶴沼川の流水を貯留して墾道により西郷村真名子に導水、阿武隈川を利用し白河市大沼地内穴丘から分水し、矢吹ヶ原の一部を開田する計画をたてた。しかし当時は機熟せず、実現に至らなかった。

用水と農民の努力



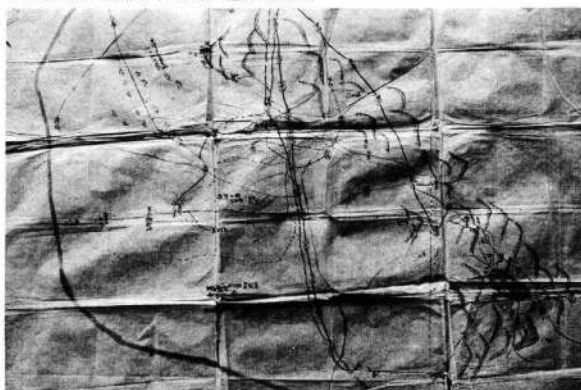
星吉右衛門

建白書

矢吹に数十町歩の美田を開くため、羽鳥にダムをつくることを計画した。同志をつかり、事業に着手し、資金も集まらずに難渋を願う。ついで、何分のご協力を願う。という星への建白書



矢吹ガ原用水絵図（申請者 星吉右衛門）



矢吹ガ原用水絵図

日本海側に流れる鶴沼川を堰止めて、溜められた水はトンネルにより西郷村真名子に導き、阿武隈川を利用して白河市大沼地区から分水し、矢吹ヶ原を開墾するということになっている。この構想はやがて戦後実現するわけであるが、星吉右衛門は明治三十年（一八九七）、今度は猪苗代湖からの導水を立案して申請したが、この計画もかたはは変ったが、現在の安積疎水第二幹線として生かされておき、本県開拓史の偉大な先人として、永く記録にとどめられるべき人である。

大和久(万歳堰)

大和久の星吉右衛門が立てた明治初年の計画に対して、地元農民が協力し、隈戸川を堰止めて大和久地内の開田灌漑を行った。大和久・川原・宮田地区併せて約30ヘクタールに及んだといわれている。当時の事業としては、大規模なものであった。



三十三観音の洞門

明治初年に主として久米石地区の人たち、吉田勝五郎・星善之助・菊地勘次郎等が三十三観音の附近の岩壁に、隧道による用水道をつくり、久米石地区の原野を開田灌漑しようとしたが、果せなかった。広大な矢吹ヶ原をめぐる、用水にかける農民の努力は血と汗の歴史であった。

石積みによる橋脚などは計画のみで、実際は木橋であった。現在の明新橋より上流一〇〇メートルに作られた。

橋の設計図



新橋架設願 (明新)

明治31年(1898)2月、新橋架設願。この計画によると、矢吹駅から大畑を経て明新へさらに中野・石川へと直行線をつくり、この橋を架設して道路の開通を計画した画期的構想であったが、実現はされなかった。



みようしん橋

昭和五年(一九〇三)十月明新橋が完成し、渡り初めを行ったときの記念写真である。この橋は現在も使用されている。

産業の成長

中畑村の精農家の民家（明治30年ころ）



矢吹町と言っても旧矢吹村・中畑村・三神村の合計で、柿之内地区は除く。明治四十三年の農産物はなんと言っても、米の生産が第一位である（明治四十三年の農産物調査）。米の収穫量一万二千三百一十石の内訳は、矢吹地区三万五千三百一十石、中畑地区三万七千九百一十石、三神地区五万九千七百一十石で、陸稲は特に中畑地区に多く、反当収量は矢吹・三神両地区は西白河平均を大きく上回っているが、中畑地区は郡平均と同じくらいである。また麦の収穫量をみると、大麦二万四千〇石、小麦八千九百一十石、裸麦八千四百一十石で、反当収量をみると、矢吹地区の大麦、中畑の小麦を除いては、郡平均を上回っている。大豆は一四七二石で、矢吹地区が少なく、小豆は一六〇石で、中畑地区が一番多い。雑穀では、粟（九千九百一十石）が多く、そば（二万二千六百一十石）は、中畑地区に多い。かんしよ、ばれいしよは矢吹地区が少なく、三神地区が多い。養蚕では飼育戸数六千六百七戸、収穫量一六千七百一十石で、三神地区が約半数を占めている（八千五百一十石）。

【郷土誌】によると、明治八年ころ夏蚕を飼育して自家用蠶糸を製したのが三神の養蚕の初めで、明治二十年ころより春蚕を始めた（注：桑田利雄氏）。こんなにやくは明治十五年ころ諸根民治が初めて栽培し、明治二十年ころより全村に普及したが、明治三十年より四十五年ころまで栽培し、腐敗病が七八年ころも続いて発生したので、一時栽培が中絶したことがあった。

明治32年、白河実業銀行は資金65万円で開業した。大正元年(1912)8月、白河実業銀行矢吹支店が、大正7年(1918)8月には須賀川銀行矢吹支店が開店した。この銀行は明治32年(1899)に資本金11万円で須賀川町に開業したものである。町の商業発展にともなう、金融の必要性は増大した。

大正10年(1921)7月、矢吹銀行が資金60万円で開業した。しかし昭和2年(1927)の金融恐慌に見舞わ

れ、次々に破産休業に追い込まれていった。

昭和18年(1943)には県下の各銀行が合併して、東邦銀行が設立されるに至った。大正13年(1924)には郡山専売支局須賀川支所矢吹取扱所が開設し、昭和4年度葉煙草収納高は6417貫16914円であった。大正14年(1925)公設矢吹蕨市場が開設されるなど、次第ににぎわいを増していった。



矢吹町の祭り（明治四十年ころ）

明治42年(1909)の統計によると、清酒は製造戸数6(天城地区3戸)で、醸造高は1184石、価格にして4万2637円で、矢野町第4位の生産額である。醤油の製造戸数は6で生産量は259石、産額4426円である。製茶戸数は9(8戸は7町)で、40貫、74円生産している。林産物を見ると、当町第2位の生産額を示しているが、用材6190円、薪3200(8925円、主産)のはか、竹材(560石、3209円)で竹皮、苗木などであるが、珍しいのは御料地の葎狩りである。また三城目、明新から三城目石がある。

当時矢吹には次のような会社工場があった。矢吹製糸会社（明治30年1月創業、資本金6000円）、矢吹製材合資会社（明治37年7月創業、資本金3000円）、旭製材所（明治40年8月創業）。



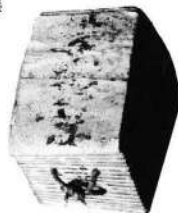
酒屋のレッテル



酒屋のレツテル



醬油屋大福帳

[illegible]

農 業

三神村では、明治三十年に農会ができて農事改良を呼びかけている。このころ矢吹村・中畑村でも農会が生まれている。

米作は明治四十三年一万三七三石、大正十五年に一万三七八石でいくらかふえた程度で、稲作改良はそれほど進まなかった。

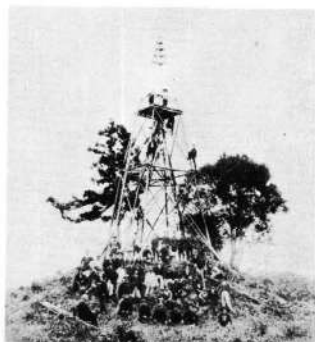
養鶏は明治三十五年ころ、関根亀吉が初めて白色レグホーンを五羽飼育した。葉タバコは明治四十五年、藤井安蔵が松川葉の種子を専売局より受け、栽培したのが始まりで、たばこ耕作組合もできている。

大正期に入り、農事改良の指導もようやく軌道に乗り、各種講習会や品評会などが行われ、馬耕の普及、石油発動機の使用などが行われている。



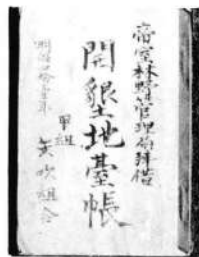
中畑信用購買組定款

明治32年「産業組合法」が制定されてから、産業組合が各地に設立されたが、当町では明治41年2月25日の有限責任大和久信用購買組合の設立が最も早く、大正2年2月3日有限責任中畑信用購買組合(組合員64名)、同年3月無限責任三神信用購買販売組合が発足し、金融・購買(特に肥料)を行った。大正8年8月1日に矢吹信用購買組合が発足し、肥料・繭の買入・商品・新築・農具買入れなどの融資を行い、半商半農地域としての組合が誕生した。

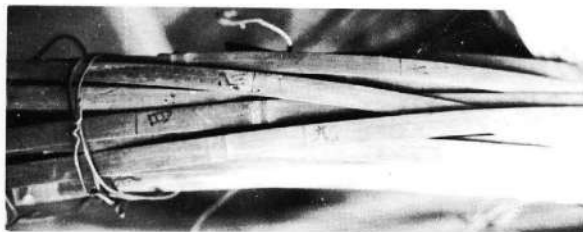


三角点測量

明治34年(1901)5月、に三角点(矢吹町大字三城目字出合赤坂地内)測量が行われた。これは、陸軍省令によったもので、陸地測量部三角科の測量班が行った。



土地開墾台帳
(明治41年)



竹製の巻尺(明治時代)

石綿焼

明治十九年（一八八七）に神田村
藤井金十郎が創業した。原料となる
石綿及び粘土は栃木県に求め、自宅
の東側に窯（かま）場を作って、量産
に入つたという。ほとんど手ねりに
よるもので、素朴な製品であること
が特徴である。茶器・湯呑み類など
が主な製品で、小判型の金石堂とい
う刻印が押されてある。大正の初め
ころまで製作を続け、各地の博覧会
などに出品して好評を受けたばかり
でなく、宮内省などに献上して感謝
状を受けたことが数回に及んでいる
のを、初代は金十郎であるが、これ
を子息金次が受け継ぎ、数多くの製
品があったが、現在は殆んど散逸し
て、残っているものは少ない。



石綿焼花びん



石綿焼茶ぼん



当時の広告



石綿焼茶わん

矢吹馬糞



馬糞風景

矢吹の馬糞市は明治17年(1884)ころから始められた。明治40年(1907)ころから常設の馬糞が開かれた。毎年3月31日から4月10日まで、近郷近在から洋種・雑種併せて約800頭が集まり、取引額は5万円の多額に及んだ。遠くは九州・岐阜・群馬・茨城・千葉から馬喰たちが集まって、大変な盛況であった。当時の馬糞市場は、現在の矢吹農協の裏あたりであったといわれている。

馬糞 広告(表)

馬糞 広告(裏)



北馬代金借用証書 明治7年(1874)

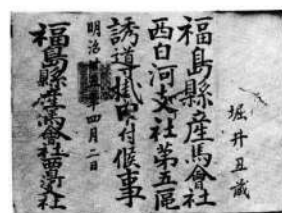
矢吹馬喰節
近年民謡会などによって、馬喰節保存がなされてきた。

矢吹馬喰節

- 一、夕べ生れた栗毛の駒はよー
前は白足流れ星
- 二、馬喰さんには何が良うてはれた
まけろひけろは袖の中
- 三、金の茶釜が有る様な話
行つて見りや土瓶のふたもない



馬共進会
矢吹町外4ヶ村連合産駒共進会
(大正11年3月)



①②とも辞令



馬 魂 碑
現在大池公園の入口、雄子塚の碑の側に建立されている馬の供養碑である。開拓が進むにつれて、草原地は、次々に消え去ると同時に、農耕馬などの需要はほとんどなくなってしまう、農耕は動力化されて、馬の姿は消え去った。

明治四十二年(一九〇九)西白河郡統計書(明治時代の畜産)によると、まず家畜の飼育頭数では、馬六二八頭、牛なし、豚八頭である。馬の成績は、売却主取頭数二二〇頭で、売却総額九万三千八十六円。鶏の飼育戸数は七十五戸で、四八一六羽、ひなどり二六九〇羽で、この産額一万〇二五五円。鶏卵の産額八六一七円で、三神地区が六五パーセントを占めている。



産馬会記録



矢吹町の宿屋に、その当時の馬産が盛んであったことを物語る「馬糞萬担」「旅籠帳」などが残っている。



⑤ 明治二年八月九日
当歳駒御改書上帳
⑥ 昭和二年三月
馬高勘定帳

岩瀬御猟場

岩瀬御猟場（御猟場地図）

矢吹ガ原は幕藩時代には行方原と総称され、地域的に北の方から六軒原（現在の須賀川市・鏡石町にかけて、西原・北原・南原・三城目原・岡谷地原・八幡原・矢吹町・十軒原（泉崎村）などに分かれているが、いつごろから矢吹ガ原と呼ばれるようになったかは明らかでない。

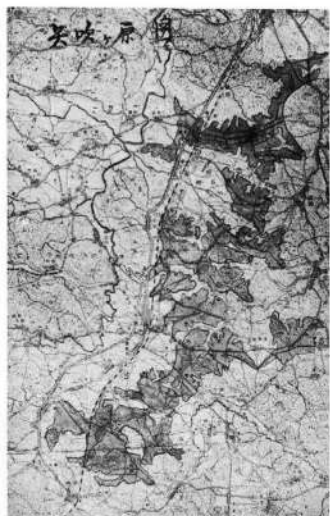
これらの原野は明治十八年から

いわゆる岩瀬御料地として宮内省の管轄に入ったが、そのころから矢吹ガ原と呼ぶようになったといわれている。この岩瀬御料地の南半に、明治二十四年岩瀬御猟場が設置された。これらの原野は村々が共有して利用していた入会地・入会山などで、矢吹ガ原の総面積は三〇〇〇ヘクタールといわれている。

宮内省御猟場は明治二十四年（一八九二）から大正十四年（一九二五）までであったが、皇族や内外の名士が次々に訪れた。特に、日本海軍の名提督東郷平八郎は常連の一人であった。

『郷土史』によると、「明治四十四年十一月、キジ二、八〇〇羽、明治四十四年四月、ウサギ一〇〇頭獲物とした」とある。

このころの矢吹ガ原には、キジ、山ドリ、ウサギなどたくさんの野生動物が生息していた。



御猟場看守(1)



賞状（明治35年12月17日）



御猟場看守(2)



豊狐の団らん

大正14年(1925)、狐場看守遠藤重三郎満29ヵ年勤続。その時の記念写真である。左から2人目。

伏見宮出狐時の写真

(筑前屋旅館前にて)
大正13年(1924)

その当時、朝香宮・北白川宮・賀陽宮・秩父宮各殿下が狩狐のために矢吹へ来られた。



御狐場職員集会所の碑
大正十四年(一九二五)十二月、宮内省岩瀬御狐場が解除になった。矢吹町の中心から北東二キロメートル、通称三角点に御狐場職員集会所の記念碑がある。
大正十四年十一月十日とある。

「宮内省御狐場」石柱

この石柱は須栗村の萱場にあつたもので、大正三年八月二十五日、須栗村保護担当の記銘がある。
現在には須栗酒井政敏方の庭に保存されている。



国営矢吹御猟場

出 獵

三神村営獵区事務所前を午前六時出発するところである。(元、三神村役場前)

(昭和初期の村営獵区事務所前のもの)

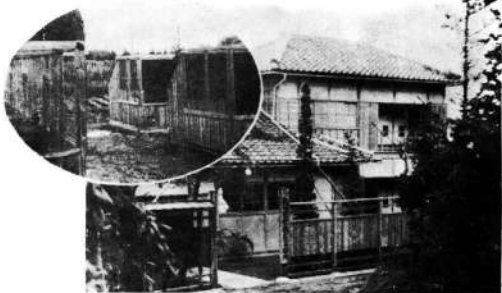


矢吹国営獵区事務所

大正十四年(一九二五)十二月、宮内省岩瀬獵場が廃止されたが、キジの保護繁殖を理由に、国営獵区を設立した(また、三神・中畑・滑津の三村は、村営獵区を設立した)。

農林省矢吹国営獵区事務所を設立し、雄繁殖所では、年間三、〇〇〇羽の繁殖を行った。年間の獵は、八〇〇羽の捕獲にとどめたということであった。

(写真内は雄繁殖所)



矢吹獵区案内状

(昭和6年10月)

矢吹国営獵区及三神・中畑・滑津村獵区案内と上野～矢吹間の汽車時間表

上野 矢吹間汽車時間表		矢吹 中畑・滑津間汽車時間表	
上野	矢吹	矢吹	中畑・滑津
11:00	11:15	11:00	11:15
11:30	11:45	11:30	11:45
12:00	12:15	12:00	12:15
12:30	12:45	12:30	12:45
13:00	13:15	13:00	13:15
13:30	13:45	13:30	13:45
14:00	14:15	14:00	14:15
14:30	14:45	14:30	14:45
15:00	15:15	15:00	15:15
15:30	15:45	15:30	15:45
16:00	16:15	16:00	16:15
16:30	16:45	16:30	16:45
17:00	17:15	17:00	17:15
17:30	17:45	17:30	17:45
18:00	18:15	18:00	18:15
18:30	18:45	18:30	18:45
19:00	19:15	19:00	19:15
19:30	19:45	19:30	19:45
20:00	20:15	20:00	20:15
20:30	20:45	20:30	20:45
21:00	21:15	21:00	21:15
21:30	21:45	21:30	21:45
22:00	22:15	22:00	22:15
22:30	22:45	22:30	22:45
23:00	23:15	23:00	23:15
23:30	23:45	23:30	23:45
24:00	24:15	24:00	24:15

矢吹獵区案内

矢吹会発会式

昭和6年(1931)3月、矢吹国営獵区、三神・中畑・滑津の三村営獵区入獵者及び獵区関係者をもって組織され、事務所は東京に、支部は矢吹町内の旅館内においた。

国営獵区になってからは、日本財界の名士たちがぞくぞく来町して、獵を楽しんだ。



猟区設置反対

国営猟区の廃止期になって、猟区設置存続を町当局は計った。然し、町常会・町内会など多くの反対を受けたようである。昭和十六年（一九四一）十二月、県営猟区設置反対の「檄文」が発行された。一、〇〇部印刷され、町内外・東京方面にも配布された。キジの農作物に与える被害の甚大なこと。宮内省御猟場時代と違って、二夜成金風情の都市ブルジョア入猟者の地方農民に与える悪影響。国策である食糧増産に逆行し、農民を犠牲とする県営猟区設置には反対である旨が書かれている。この猟区は、後に、戦時体制へと傾いてゆく時局のなかで、自然消滅となった。



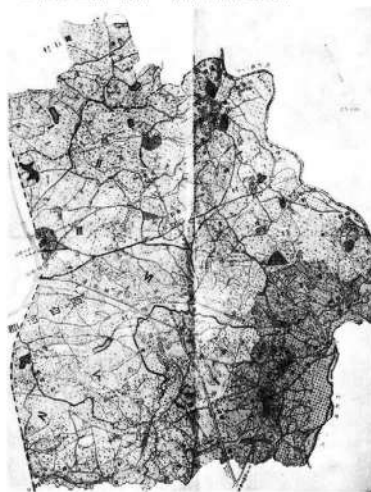
猟区設置反対の檄文

矢吹国営猟区民有地調
べにより、猟区設定によ
る損害補償金が支払われ
た。



猟区全図

昭和5年(1903)ころの矢吹国営猟区
と中畑・三神・滑津の各村営猟区地図



明治16年には、町の官有地が宮内省管轄の御猟地に編入されたが、広大な御料地のため、町民は山林原野の下刈・枯木払下げなど、何とか土地を借用して開墾したいと考え、たとえば、明治30年、中畑村民が御料地を借用して百数十町歩を開墾、秋にはまつたけ狩りなどを考え、何とかして御料地を利用させてもらおうことを考えた。



キジによる被害について
丸野実行町長のとき（大正七年から同十一年）、矢吹ヶ原御猟地におけるキジによる被害についての補償を要求する農民運動が起り、宮内省に陳情したということである。町役場を通して、キジ喰料に対し、耕作地反当り三〇銭位補償がなされたことである。しかし小作人の作物に対しては、何らの補償もされず、地主に対しての補償であった。

雄子塚
現在の矢吹町大池（あゆり沼）公園入口に雄の供養のため雄子塚の碑が建っている。
（昭和九年十一月四日除幕）

政治の動き

明治四年（一八七二）の廃藩置県後、行政は幾度か変遷を遂げる。明治五年（一八七二）には、従来の庄屋・名主・年寄などを廃止して、戸長・副戸長を設置し、明治八年（一八七五）には、区制の変更が行われ、矢吹の村々は福島県第九区に入る。そしてやがて明治十二年（一八七九）には、郡区町村編制法によって、今までの区制が廃止され、郡が独立して、郡役所が開設されることになる。これより先、明治十年（一八七七）には、他県に先がけて、民会規則を独自に県はつくり、県会議員の選出がなされ、後に、全国の府県会規則公布による県議会へと発展する。この間、地租改正がおし進められ

ていった一八七〇年代の後半から、地租改正に反対する農民を巻き込んで、「自由民権」の運動が起りつつあった。御一新に期待し、政治の改革を望んだ人々は、自由民権運動へと結集して、やがては、国会開設を望む声へと広まりを深めていく。その中で、福島事件が引き起され、自由民権運動弾圧が強化されていくことになる。

そのあと、自由党内の分裂は、自由民権運動をさ折させ、福島を追われた党内の急進派は、群馬・加波山で蜂起することになる。板垣退助らは、指導を放棄して、自由党を解散してしまふ。



河野広中筆の額（矢吹神社）

明治八年（1875）8月、石川に石陽社が創立され、自由民権運動が展開されたが、矢吹の村々にも、小針重雄をはじめ長尾永次など、自由黨員として活躍した人々があり、石川区会所10区戸長の小針七左衛門をはじめ、中畑・中野目・明岡・大畑・中畑新田村の用掛となった旧庄屋層の人々の間にも民権思想は広まった。

中畑村では、明治11年（1878）2月2日、他に先がけて民会による村会をつくり、若者連や消防組をつくる事、葬礼の節約を決議している。

いま矢吹神社にある河野広中筆の額を見るにつけ、当時の面影がしのばれる。



自由民権の横額

小針重雄君えい髪之碑

矢吹新田村の小針重雄は、一七歳の時に医師を志して上京し、勉学中に、自由民権運動に参加するようになり、憂国の同志と共に活動した。

県令三島通庸の住民に対する弾圧と専制政治を批判し、福島事件後、明治十七年（一八八四）福島・栃木、茨城の若い自由黨員と謀って、茨城県加波山を拠点として、県令を襲う計画をたてたが、事前に発覚して成就できなかった。

その後、連座したものは、ことごとく弾圧され（加波山事件）、小針重雄も若冠二歳で、その犠牲者となった。

地方民会の開設と県会

明治八年（一八七五）末から、全国的に地租改正に反対する一揆が相次いで起った。小作人が小作料を減らせと要求する一揆も起った。いっぽう、豪農を中心とした、彼等が結びついて、自由民権の運動は発展していった。彼等は地価を決めるために選ばれた総代人（村代表）をして、地価のおしつけに反対し、公選による地方民会を開いて、民意を聞くことを政府地方官に要求した。明治八年五月、地方官会議を傍聴に来た各地の豪農は、連名して會議に「地方民会」の開設を要求した。福島県では河野広中が東日本で初めての民権派の結社石陽社をつくり、自由民権の指導者となった。

明治十年（一八七七）十一月、福島県では、他県に先がけて民会規則をつくり、翌十一年一月、地方民会を召集した。この時、各地区から投票により選挙された民会議員が六月一日福島西蓮寺に集まり、県会議事堂の新築、地方民会の運営方法などについて協議した。この時第九区から県会議員として中畑の小針七左衛門が民会規則により選出され、書記などの大役を果たしている。

民会による県会議員点検証

（明治十一年四月十二日）

點検証

福島県民権会

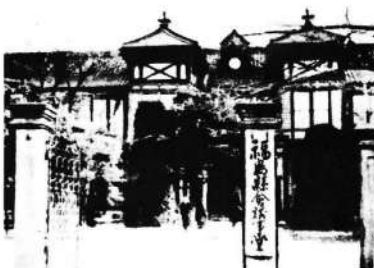
落札 小針七左衛門

但馬札取部と我

右點検之上縣會議員
負二決定スル者也

押印者 川留七

明治十一年四月十二日



福島県会議事堂（明治34年～昭和29年）

明治十一年（1878）7月22日に府県会規則が公布され、翌12年2月に県会議員の選挙が行われた。中畑村の岡崎長次郎が県会規則により県会議員に当選した。6月1日、初めて県会が召集された。

西白河郡会

明治30年（1897）11月20日、郡会が開設された。これは当時の白河郡会総町村組合を引きついで出来たもので、初めは白河の関川寺に仮議事堂をつくっていたが、明治34年（1901）11月15日、白河の本町に郡会議堂が新設されてからは、そこで会議を行った。西白河郡会は、主として郡内の教育・勸業・土木について協議している。この建物は現在白河市南湖に移築保存されている。



西白河郡役所（白河町道場小路）

この郡会は大正12年（1923）3月31日で廃止されたが、その間、矢吹地区選出の郡会議員は右の人々であった。

明治・大正の県政に活躍した人々
民会による県会議員
小針七左衛門（中畑村）



（明治11年1月～明治12年4月）

県会規則による県会議員
岡崎 長次郎（中畑村）



（明治12年5月～明治13年12月）

県会議員
円谷 善助（三神村）



（明治32年9月～明治36年9月）

県会議員
酒井 岩之助（矢吹町）



（明治44年9月～大正4年9月）
（大正4年9月～大正8年9月）

就任年月日	矢吹地区	中畑地区	三神地区
明治30. 10	大野喜三郎	小針東五郎	円谷 善 助
" 32. 10		岡崎長次郎	
" 36. 10		蛭田倉之助	丹内忠太郎
" 40. 10	酒井岩之助	高久 慶 吉	渡辺 金 蔵
" 44. 10	矢吹平 司	小 針 静 雄	
大正 4. 10	大 木 代 吉		酒井寅三郎



明治30年代の矢吹町の市街地

矢吹の町村沿革表

	明治元年(1868)	明治元年～明治22年 3月31日	明治22年 4月1日～明治36年 11月30日	明治36年 12月1日～昭和30年 3月30日	昭和30年 3月31日～ 昭和49年 3月31日現在
白河郡	矢吹村	矢吹村 (明9.5.18) (2村合併)	矢吹村 (明22.4.1) (3村合併)	矢吹町 (明36.12.1) (町制施行)	矢吹町 (昭和30.3.31) 3村及び 広戸村の一部 合併合併
	矢吹新田村				
	中畑新田村				
	大和久村				
	松倉村	松倉村 (明9.6.2) (2村合併)	中畑村 (明22.4.1) (3村合併)		
	七軒新田村				
	中畑村				
	大畑村				
	三城目村	三城目村 (明9.6.2) (2村合併)	三神村 (明22.4.1) (6村合併)		
	三城目新田村				
	須乗村	須乗村 (明9.6.2) (2村合併)			
	須乗新田村				
	神田村				
	堤村				
	中野目村				
	明岡村	明新村 (明19.5.28) (2村合併)			
	明岡新田村				
岩瀬郡	柿之内村		広戸村 (明22.4.1) (5村合併)		岩瀬郡天栄村 に合併
	高林村				
	飯豊村				
	白子村				
	小川村				

矢吹の町村沿革と町長

明治二十二年、中畑村・三神村・矢吹村がそれぞれ発足した。三神村は阿武隈川沿いの部落の集まりで、いたる所に古墳群があつて、古代より栄えていた所であり、中畑村は脇街道沿いの部落で、江戸時代には中畑陣屋などがあつて、この地方の中心地であつた。

また、矢吹村は江戸時代以来宿場町として栄えた矢吹村・中畑新田村を中心としたまちであつたが、明治二十年七月十六日鉄道が開通して矢吹駅が開設されてからは、矢吹村がこの地方の中心となつてきた。その結果は、

(「前略」) 鉄道開通町村制実施以降は有年ノ星霜ヲ経過シタル今日商業取引ヨリ其他ノ生産事業発達シ来リ町家ノ光景秩序的歩ヲ進メ大イニ面目ヲ改メルモノアリ故ニ今や地方ヨリ矢吹町ヲ以テ通セラレ現下附近村落ノ民人ニ於テハ通常需用品ヲ購買スルニ單ニ町ト称シテ相往來スルニ至レリ(中略) (「矢吹村会議録」)

明治三十六年十二月二十六日、矢吹村が町制を施行し、旧矢吹町の誕生をみた。

矢吹村長・町長

初代 緑川 重世



(明治22. 2. 17~
明治24. 3. 1)

二代 山本 重承

(明治24. 4. 8~
明治27. 6.)

三代 大谷 知房



(自明治27. 9. 28~
至大正3. 9. 27
(5期))

矢吹町役場新築議案

大正十五年(一九二六)三月議会において、第四号議案として役場庁舎新築のため、役場移転並びに旧建物売却の件が提出されている。そのため、一時矢吹農産市場、現在の矢吹農協裏の旧富永精機跡地内にあった。(大正十五年三月二十五日)



四代 武藤 一策



(大正3. 9. 28~
大正7. 12. 18~
大正11. 12. 17
昭和略)

五代 丸野 実行



(大正7. 12. 18~
大正11. 12.)

矢吹村・中畑村・三神村と
歴代村長

明治二十一年(一八八八)四月二十五日に市制・町村制が公布された。

これに伴って、矢吹地方の村々が合併して、次の三つの村が誕生した。

矢吹村は、中畑新田村・大和久村が合併して矢吹村となった。柿之内村は、この時高林村・飯豊村・白子村・小川村と合併して江戸村に入った。矢吹村は明治三十六年(一九〇三)十二月一日に町制を施行した。

中畑村は、大畑村・松倉村を合併して、新しく中畑村となった。田中畑村には、明治十一年(一八七八)二月二十八日、地方民会を開設して(民会議員一九名)若者連や消防組をつくることを決議した。

三神村は、三城目村・神田村・須乗村・堤村・中野目村・明新村が合併して三神村となった。三神村の役場は、最初は神田の民家を借用して開設している。その後、明治三十八年(一九〇五)三城目村に村役場を移転した。

明治二十二年(一八八九)二月十七日に矢吹村初代村長に緑川重世、同年七月二十七日に中畑村初代村長遠藤七兵衛、同年九月六日に三神村初代村長矢部昌成がそれぞれ就任した。矢吹村、中畑村、三神村の歴代村長は次のとおりである。

中畑村長



初代 遠藤 七兵衛
(明治 22. 7. 27)
(明治 26. 6. 30)

中畑村役場(明治二十二年)
(現在の中畑郵便局のあるところ)



2代 岡崎 長次郎
(明治 26. 7. 1)
(明治 30. 6. 30)



3代 井戸沼敬太郎
(明治 30. 7. 1)
(明治 32. 4. 19)



4代 遠藤 重三郎
(明治 32. 9. 25)
(明治 34. 1. 5)



5代 遠藤 登一郎
(明治 34. 2. 2)
(明治 37. 2. 20)



6代 蛭田 倉之助
(明治 37. 12. 23)
(明治 41. 12. 16)



7代 岡崎 金太郎
(明治 42. 2. 22)
(大正 2. 2. 21)



8代 高久 健造
(大正 2. 2. 22)
(大正 3. 1. 6)



9代 加藤 延成
(大正 3. 6. 5)
(大正 7. 6. 4)

明治二十二年

町村制施行による

矢吹の村々人口及戸数

市町村名	人口	戸数	戸長
一八八六明十九十一月三十一日現在			
松倉村	二四一	三六	
中畑村	一、一六四	一七五	
大畑村	一一四	一八	
三城目村	九二二	一三六	
須乗村	二二七	三〇	
神田村	一四七	二三	
堤村	一一九	一八	
中野目村	一四八	二四	
明新村	一八八	二八	
矢吹村	一、〇七一	一九一	
中畑新田村	三〇九	五〇	
大和久村	三一九	五〇	
富貴部	五五七	九七	
柿之内村			

三
神
村
長



初代 矢部 楯蔵
(明治 22. 9. 6)
(明治 30. 5. 5)



旧三神村役場跡

明治22年4月1日町村制実施により、神田の民家を借用して三神村役場を開設した。

明治38年9月15日、大字三城目に移転した。



5代 遠藤 勇三
(明治 42. 3. 19)
(大正 3.)



4代 加藤 為三郎
(明治 40. 5. 10)
(明治 42.)



3代 酒井 寅三郎
(明治 35. 3. 20)
(明治 40.)



2代 佐久間 国亮
(明治 30. 8. 9)
(明治 35.)

大正9年10月

町村別戸数人員量

町 村	人 口	世帯数
中畑村	2,154	428
三神村	2,428	464
矢吹町	3,098	633

(大正9年 国勢調査から)



8代 円谷 善助
(大正 11. 9. 27)
(大正 15. 9)



7代 渡辺 金蔵
(大正 7. 9.)
(大正 11.)



6代 太田 貞造
(大正 3. 3. 25)
(大正 7.)

明治・大正の官公所

西白河警察署矢吹分署

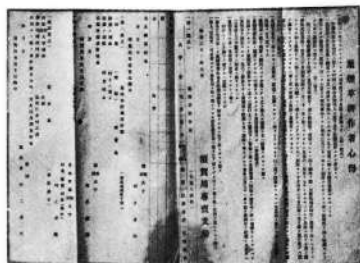
(明治二十四年 定員一〇名)

福島県警察組織(明治二十四年)によると、西白河警察署矢吹分署があり、定員一〇名が配置されていた。東側六十番地(元白河信用金庫矢吹支店敷地)にあって、当時、矢吹ヶ原御料地を利用する皇族・宮内官外名士の警護・警戒が主要任務であった。大正十一年、矢吹警察署となり、西側四十一番地(現在矢吹町役場)に新築移転した。



矢吹町消防組

明治27年6月1日矢吹村消防組として組織された。これは矢吹組第五部(中畑新田)がポンプを購入した時の写真である。大正10年ころは、このような手押しポンプであった。



葉煙草耕作者心得

明治31年、須賀川に郡山専売支局須賀川出張所ができた。矢吹で煙草が栽培され始めたのは大正3年ころからである。大正13年4月、郡山専売支局須賀川出張所矢吹取扱所が設置され、この地域産の葉煙草の収納に当った。この写真は明治33年7月に、葉煙草耕作者に配付したものである。



公設矢吹蒔市場仮規約

矢吹地方では、明治時代末期から各農家で蜜を飼うようになった。大正13年9月、矢吹の有志の間に、蒔市場開設のことが発起され、大正14年公設矢吹蒔市場の開設となった。これはその当時の仮規約である。



煙草集納所

大正13年(1924)4月、郡山専売支局須賀川出張所矢吹取扱所が設置された。最初は現在の町営大林住宅のところに開設され、その後石川道路切のところに移転、さらに戦後になって石川通り岡谷地内に移った。この跡に現在矢吹町中央公民館が建てられた。



日清戦争(明治27年~28年)
に従軍した兵士たち

占領した大きな公館の前での記念撮影。

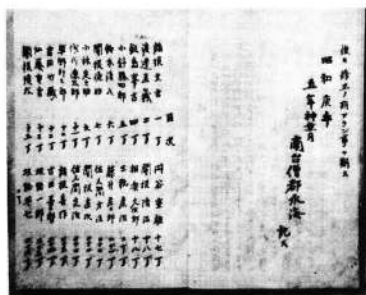


征清戦闘日記
当時出征した兵士の従軍戦闘日記である。
内容は、毎日の戦闘状況や軍隊の様子が詳しく記されている。



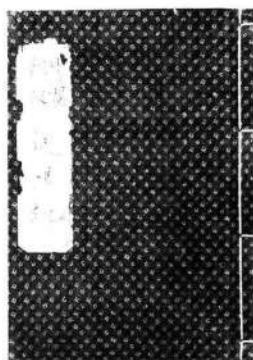
当時の画報

日清戦争の兵士たちの活躍はこのようにして民衆に伝わり、国民を一喜一憂させたのである。



従軍者名簿

日清・日露両戦役に参加した者の従軍名簿。昭和五年十月、大滝永海という僧が編集したもの。三神地区の人々の名が見える。



日清・日露戦役の従軍記

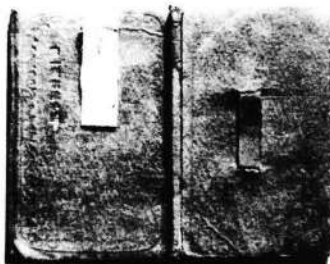
日清戦争において、中畑村1名、三神村5名、矢吹町4名の戦死者があった。



日露戦役当時の戦死者
日露戦争における戦死者である。
(大本営写真真班撮影
日露戦役写真帖より)

軍隊手帳とその内容

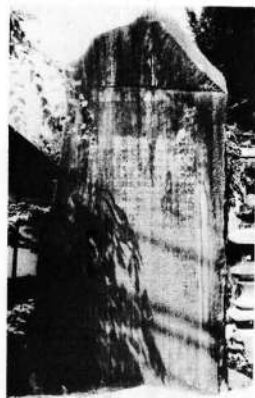
日露戦争当時（明治三十七年～三十八年）の軍隊手帳。
（第一種軍隊手帳）とあり、兵士自身の軍隊における経歴が詳しく記入されている。



日清・日露戦争戦没者数

日露戦争	日清戦争	町村名
		三神村
五	〇	中畑村
一	二	矢吹町
四	〇	

日露戦役戦没者合同慰霊祭



三城目征清記念碑



中畑忠魂碑



中畑従軍記念碑



日韓合併祝い矢吹町秋祭りのとき

戦争と民衆 (略年表)

年 代	政 治 ・ 社 会	文 化
明治27年8月1日	日清戦争始まる	
" 37年2月	日露戦争始まる	
" 41年		矢吹・中畑・三神に青年団発足
" 43年8月	日韓合併	
" 44年7月		須賀川電機株式会社矢吹支店 電柱・電灯の取付はじめる
" 45年		矢吹にはじめて電灯つく
大正3年8月	第一次世界大戦始まる	
" 4年		中畑にはじめて電灯つく
" 6年		三城目にはじめて電灯つく
" 7年8月	米騒動各地に起る。シベリア出兵	
" 9年3月	尼港事件	
" 9年7月30日		矢吹町延女会発足
" 10年		合名会社「公衆館」できる
" 11年		中畑村延女会発足
" 12年9月1日	関東大震災	
" 12年	大正10～15年 小作争議各地で きかんに起る	柿之内電灯つく
" 13年		松倉に電灯つく
" 14年	各町村に警防団設立。	全国少年野球大会福島県大会で 中畑チーム優勝
" 15年6月30日		矢吹・中畑・三神に青年訓練所設置

明治四十二年(一九一〇)桂内閣は、日韓
 併合の具体的方針を定めて、条約に調印、
 国を朝鮮と改称し朝鮮総督府を設けた。

学校のうつりかわり



中畑小学校卒業証書



明治9年ころの矢吹小学校の卒業証書



三城目小学校卒業証書



矢吹小学校卒業式（明治三十年ころ）

小学校のうつりかわり

明治5年5月2日 学制発布（小学校下等4年，上等4年）

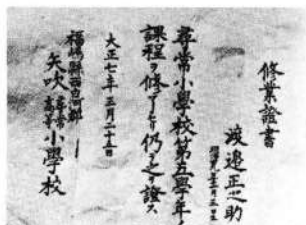
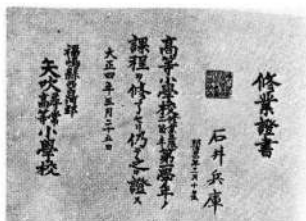
	矢 吹 小	三 神 小	中 畑 小
明治6年1月20日		中野目小学校創立。三城目小学校創立	
〃 6年6月1日	矢吹小学校大福寺仮校舎にて創立		
〃 7年		中野目小学校より川辺，中畑，大畑が分離	
〃 7年9月23日			中畑，大畑をもって中畑小学校が霞江寺仮校舎にて創立
〃 8年11月	大福寺門前に独立本校舎完成		
〃 10年5月		明岡村字丸山に丸山小学校開校	
〃 10年	大和久分校設置		
〃 11年3月28日		三城目小学校新築落成（三城目上町上野山）	
〃 13年	〔上・下等小学を廃し，初等科・中等科（各3年）・高等科（2年）となる〕		
〃 13年9月1日			松倉分校設置
〃 19年	大和久分校廃止（小学校尋常科4年義務制，高等科4年制となる）		
〃 20年4月	矢吹尋常小学校と称す	三城目尋常小学校と称し，中野目に分教室を置く	
〃 22年			
〃 23年	（ 教 育 勅 語 発 布 ）		
〃 25年11月30日		三神小学校と改称	
〃 28年9月1日		三神小学校を三神第一尋常小学校，中野目小学校を三神第二尋常小学校と改称	
〃 33年	（尋常科は4年，高等科は2年となる）		
〃 34年4月10日	現在地に小学校舎新築移転する（194坪7教室）	三城目兼政寺に補習科あり，小高村の高等科に通わない者を脱学させた。	
〃 〃	高等科を置き，矢吹尋常高等小学校と称す		
〃 38年	校内に農業補習学校設置		
〃 40年		三神第一，二の尋常小学校を合して高等科を設置，三神尋常高等小学校と改称した。中野目小を廃校。	



大正2年11月23日、中畑小学校舎新築落成式の時の写真である。この校舎は、昭和47年2月まで使用された。

小学校のうつりかわり

	矢 吹 小	三 神 小	中 畑 小
明治41年	(尋常科6年、高等科2年)となる		
〃		三神村立農業補習学校附設	中畑農業補習学校附設
〃 44年1月9日		新校舎落成移転 三神小学校跡2番地及び神田東赤池原1番地に移転	大正元年9月大暴風雨により校舎大破し、豊江寺と正福寺に児童を分散収容する。
大正2年11月23日	子守教室設ける。本校舎西南に二階建を増築		校舎新築落成(本村95)全児童を収容する
〃 3年5月11日		農業補習学校の名称を農業補習学校と改称する	
〃 6年	集団登校を始める記録あり		
〃 7年	夏休みの互使用の記録あり		
〃 9年4月1日			高等科を併置する
〃 11年	下校庭に南向き教室増築(85坪 6,200円)		
〃 12年9月1日		増築二階校舎落成。分校を廃し本校一本とする(12.1)	2教室増築落成する(11.23)
〃 15年4月1日	本校舎西側に二階建一棟を新築、講堂一棟を新築。		高等科2学級、尋常科6学級となる。



矢吹尋常高等小学校修業証書



子 守 学 習

大正2年11月、矢吹小でも、子守教室を設けている。



矢吹小学校は、大正2年から大正11年にかけて新築し、昭和4年8月、西側校舎を改築した。



旧中畑小学校玄関 中畑小学校は大正二年十一月に新築し、昭和四十七年二月まで使用された。



中畑尋常高等小学校授業風景（大正15年）



旧三神小学校

三神小学校は、明治44年1月9日に新築落成し、三城目小学校から移転し、昭和31年5月まで使用された。（学校山から移転した）



三神小学校運動会（昭和14年）



青年学校手帳





戦時中三神青年団(処女会)の人たち。



第2次世界大戦中、食糧増産のため学校畑で

第二次世界大戦中の学校



矢吹少年赤十字団神社奉仕
(昭和3年)働く学童たち。



現在の矢吹小学校舎 昭和44年12月8日受校舎落成



現在の三神小学校と校庭の花壇

小学校のうつりかわり

	矢 吹 小	三 神 小	中 畑 小
昭和2.	3年生以下は子学舎校を許可しないことにする		
4. 4. 22		実業補習学校を三神実業公民学校と改称	鎌倉新築(90坪)2階校舎四教室増築
5.	農業補習学校を矢吹実業公民学校と改称する		
10.	実業公民学校を青年学校と改称	三神村青年学校を併置	
16. 4. 1	矢吹町国民学校	三神村国民学校	中畑村国民学校
19.	疎開児童入る		
20. 8. 15	疎開児童引揚げる	(戦 戦)	
22.	矢吹小学校と改称	三神小学校と改称	中畑小学校と改称
24. 5. 8	(週5日制開始)		父母と教師の会結成発足。田中畑中学校校舎完成
27	教育委員会受託 (週 5 日 制 廃 止)		
29.			創立80周年記念式
30.	(町 村 合 併)		
40.	全国体育優良校として表彰される		
41. 4. 12	子供育成会結成	子供会育成会結成	
44. 4. 13	不審火により出火。約2,800㎡(教室11その他)を焼失		
44. 12. 8	新校舎落成。鉄筋3階建。3,149㎡		
44. 7. 31	プール完成		
47. 3. 10	創立100年記念行事実施	創立100年記念行事実施	
48. 7. 14			プール完成
48. 9. 23			創立100年祝賀会実施



現在の中畑小学校舎
昭和四十七年三月十日新校
舎が落成移転した。

大正アモクラシ

大正の文化・風俗

明治の二大戦争によって、日本は国際的にも大きな地位を確立したが、一方国内では疲弊した経済をかかえ、台頭してくる民衆意識と共に極めて不安定な政情の中にあった。

大正三年八月第一次世界大戦の勃発は、日本にも多くの経済変動を呼び起した。軍需による好景気の到来である。一夜にして成金ができるという有様で、極端な貧富の差を生じ、米は高騰し、ついに米騒動に至る。大正八年には、本県の米価は一石当り四九四両となり、須賀川でも二〇〇人余りの町民が騒々など事件があった。米価が高くなつたおかげで、農村は少しは良くなったが、大正九年には早くも破綻を見せ、デフレとなり、米価は下り、大正十五年には、生産過剰による物価の総体的下降と共に深刻な不景気が日本全土に招来されるに及んだ。大正十二年九月一日の関東大震災と、さらに昭和二年の金融恐慌によって、日本はいちじるしく経済的打撃を受け、農村地方では、殆んど裸同然の有様で大正期を越えたのである。

以上のような社会的背景の中で、日本の民衆は思想的にめざめてきていた。近代化の思想が都会から農村へ徐々に伝わってきた。ゴンドラの歌や八木節などが流行する

一方で、工場ではストライキが頻発し、農村地域では小作争議が各所に起り、大正十四年を例にとると、労働争議数八一六件、小作争議数は二二〇六件の多きにのぼる。いずれも資本家や地主に対するめざめてきた民衆の意識的な活動に他ならない。

公衆館はその格好な舞台となり、各家庭に於いても電気の普及により、ラッパ型の蓄音機を開んで唱和するというような風景が見られたし、また洋服姿が板についた紳士や洋装に自転車を乗りまわす婦人なども見られるようになった。野球やテニスクラブがようやく一般人に浸透してきて、活躍した人々も多い。

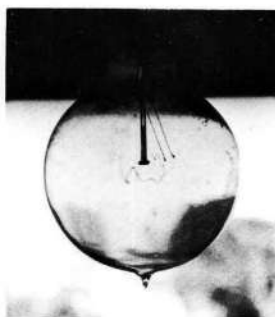
男子の青年団としては、明治四十一年に矢吹・三神・中畑三地区に結成されて、心身の鍛練、生活の簡素化、時間の厳守、飲酒喫煙の禁止、農産物品評会への協力などに団結して活動した。大正九年七月三十日、矢吹町に処女会と称する女子青年の会が発足した。同年には、中畑村にも処女会ができた。これは昭和になると、女子青年団と改称したが、修養会、生活改善講習会、連合運動会売店などに、すいぶん新しい活躍をしたのである。

これらはいずれも農村生活の向上に大きな役割を果たしたのである。この時期を大正アモクラシと呼んでいた。



電話をかけている婦人
(当時の絵紙)

大正初めころの電球



蓄音機



大正末から昭和初めにかけての農産物品評会



公 楽 館

大正十年（一九二一）六月、合名会社公楽館が出現する。以後三十年の永きにわたって、本町唯一の公衆劇場として、町民と共に生き続けてきた。観菊会、素人演芸会、出征兵士を送る会、婦人会の集い、政見演説会などが開かれ、これといった集会場を持たない当時において、単なる芝居小屋だけでなく、今日の公民館的な役割を果たしていたといえる。

建設場所は現在の矢吹農協の北隣にあたる。戦時中物資不足により雨もりがひどく、終戦直後廃館となった。その後一部が富永会館に使用された。

女子青年会出演納涼演芸会（大正十年）



公楽館のにぎわい

公楽館の外観



劇場建設の許可書

明治・大正の文芸

矢吹町は三地区とも宿場町や地方の中心地として栄えたところで、文人墨客の往来が多かったため、文学や芸術の芽がつかわれてきた。『福島県俳人事典』によると、矢吹には元禄時代より俳人が多くおり、明治時代になっても、庶民の中から俳句を作る人が多く出ている。

その中には、女性の名もあり遊女の名なども出てくるが、そのうち、中畑の景山と号した小針七左衛門は蘭溪・松廬居・南山・松窓と号し、書画を好んでかき（山に字が）和歌・俳句をよくした地方きっての文化人で、明治三十四年に没している。



幽 篁（岡崎長左衛門）

江戸時代から明治時代の文人で、中畑の人である。中畑八幡神社に、幽篁の大絵馬が奉納されている。

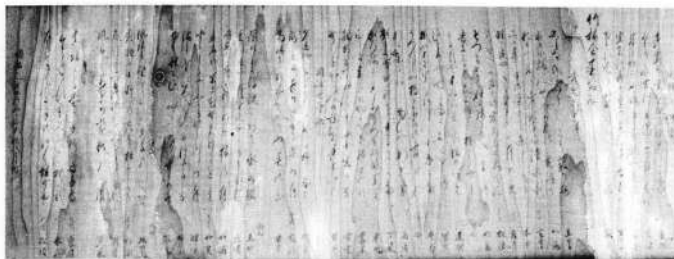


竹 堂（岡崎長三郎）

明治時代の文人で、中畑の人。中畑八幡神社に、竹堂が描いた大絵馬が奉納されている。



中畑八幡神社の献額
明治三年（一八七〇）に奉納された。この俳句額には、中畑近郷近在の俳人の名がたくさん見える。





扇面の俳句

久米正雄と山樵子（野木鶴石矢吹の人で、本名勇、医師）が書いたもの。



右から

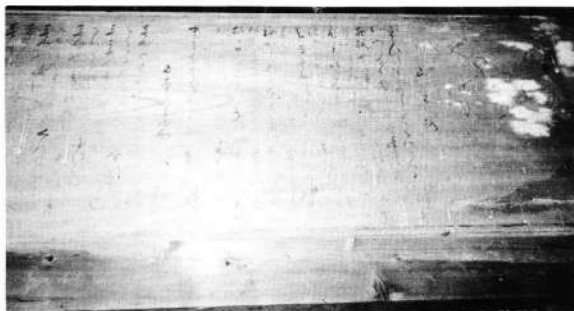
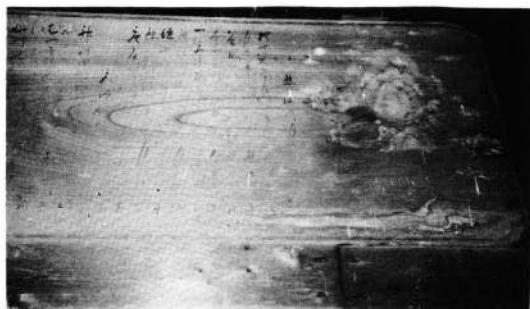
子孫（小針亮右衛門光澄）

豊哉（小針東五郎）

蘭溪（小針七左衛門）

文郁（小針七左衛門）

江戸時代末から明治時代の中畑村の文人が書いた和歌（短冊）



日吉神社の献額

明治の初期、須賀川の市原多代女をはじめ、大和久や近郷近在の俳人が奉納した額。

明治・大正のスポーツ

明治神宮陸上競技大会に中畑村青年団員の鈴木馬次郎・富永吉輝・野崎留太郎の三選手が大正十五年（一九二六）に県代表として出場した。昭和六年（一九三一）ころにも、出場したといわれている。



大正14年6月7日、第6回全国少年野球大会福島県予選大会で優勝したときの記念写真。

「県南の強豪——白河一・中畑・石川小高・棚倉の各小学校、会津地方よりやや遅れて、県南各地にも少年野球が芽生えてきた。中でも西白河郡中畑村には、愛球家の岡崎賢二が出て、大正の初期から、中畑小学校で野球の指導を始め、青少年に対して近代野球の素地を着々として築いていた。」（『福島県野球史物語』による）

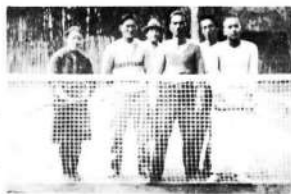


大正時代の野球で、これは当時の安積中学校野球部に三神の人が入っていた。



テニス（大正15年ころ）

大正の初めのころ、中畑の小針家の庭にコートをつくりテニスを楽しんだ。
その当時テニスはまだ一部の人たちのスポーツであった。



二、昭和はじめの矢吹

農村の恐慌

大正の終りから昭和の初めにかけて、米作は順調に伸び、大正十五年一萬五、〇〇〇石、昭和十年以後も、旧中畑村で昭和十三年四八〇〇石、同十五年六〇四〇石、同十九年七四八一石、旧矢吹町で昭和十三年三、二一〇石、同十五年三、五〇二石と順調に伸びてきた。しかし、その間昭和四年の世界恐慌のあおりを受け、昭和五年九月に満備が大暴落し、米価も暴落し、農家は窮乏のどん底に陥った。昭和八年に、満備はやや回復したが、昭和九、十年と凶作が続く、農村不況となった。それで国・県・町村では農村振興に力を入れ、土木事業のほか郷倉の設置など(昭和十年、十一年に中畑新田・大和久・松)

昭和十二年日中戦争が起り、続いて昭和十六年には太平洋戦争に発展したため、農家では米麦ばかりでなく、いも類の増産に全力をあげたが、畜力利用については、馬が軍用に徴発されたため、代って牛の利用が盛んになった。中畑村では昭和十五年の飼育頭数三二一頭、牛二七頭に比べ、同十六年には馬二七三頭と減じ、牛は一〇八頭と大幅にふえている。

大正十年旧矢吹町主要産業統計表

生産額順位	一 位	二 位	三 位	四 位	五 位	六 位	七 位
項目・生産物名	米	蕎麦	麦	そば	家畜	果実	そば
生産額	町一円 三、七九〇圓	町一円 三、七九〇圓	町一円 三、七九〇圓	町一円 三、七九〇圓	町一円 三、七九〇圓	町一円 三、七九〇圓	町一円 三、七九〇圓
生産額	八四七、〇〇圓	三九七、四〇圓	一、七六五、〇〇圓	一、七六五、〇〇圓	六、五〇〇圓	六、五〇〇圓	二、六〇〇圓
総作付面積	二、六五町						

備考 旧矢吹町・中畑村の合併による。

昭和十五年矢吹町主要産業統計表

生産額順位	一 位	二 位	三 位
項目・生産物名	米	蕎麦	麦
生産額	町一円 九、五四圓	町一円 二、〇五一六圓	町一円 二、七〇六圓
生産額	三八三、七三圓	一、二一〇、六八圓	三、七七八圓

備考 旧矢吹町・中畑村の合併による。

會大畑長(長子)が行われた。

昭和九年十一月一日、農村更生の一ツとして福島県立修練道場が陣場にできた。昭和十一年には、県営で矢吹ヶ原原有地の一部八幡原を開墾することになり、同年五月、県下各地より七八戸が入植して開墾をはじめた。

昭和十二年日中戦争が起り、続いて昭和十六年には太平洋戦争に発展したため、農家では米麦ばかりでなく、いも類の増産に全力をあげたが、畜力利用については、馬が軍用に徴発されたため、代って牛の利用が盛んになった。中畑村では昭和十五年の飼育頭数三二一頭、牛二七頭に比べ、同十六年には馬二七三頭と減じ、牛は一〇八頭と大幅にふえている。

矢吹町の十五年ころ

長びく農村恐慌にとまない、給料の未払いや失業者も増加した。矢吹町の産業を支えてきた銀行も、資金は底をつき、金融恐慌の嵐の中で、須賀川銀行(同矢吹支店)は昭和七年九月、組織変更により解散。白河実業銀行(同矢吹支店)は昭和十三年に郡山商業銀行に合併、さらに十六年十一月東邦銀行に合併した。

大正七年七月資本金六〇万で創立した矢吹銀行も、昭和十八年二月東邦銀行に合併するなど徐々に消滅していった。

昭和のはじめの矢吹の町並み



恩 賜 郷 倉

郷倉は昭和5年（1930）ころより同9年（1934）ころの農村恐慌にそなえて、農村を救うためにつくられたもので、一名恩賜郷倉といわれた。



恩 賜 郷 倉（須乗新田）



恩 賜 郷 倉（中畑新田）



土木救済事業（町道東裏線）

昭和5年（1930）ころ農村恐慌を救うために、救済政策が実施された。

その時に、この通路は土木救済事業によって作られた。当時、1日の労働賃金が60銭であったので、救済六貫といった。この通りを東裏線といっている。



入江農場構築作業状況

通称「あっぱんじゃ池」といわれる。池をつくる工事途中の写真である。現在この池は埋立てられた。当時から戦後まで、用水池として利用された。



入江開墾農場建設も、間接的には救済土木事業であった。

行政の推移

昭和(戦前)の国政・県政に活躍した人々

矢吹ヶ原の開発と用水に対する農民の努力は、幕藩時代からの新田開発となり、明治初年の羽島ダムと用水による矢吹ヶ原開発の建白書の提出、そして大正十三年(一九二四)八月十三日鶴沼川疎水発起人会の結成、矢吹ヶ原開墾期成同盟会をつくり、矢吹ヶ原国営開墾の実現と、地域ぐるみの運動を推進していった。

昭和十一年(一九三六)二月二十日矢吹町から仲西三良衆議院議員が誕生した。昭和十三年(一九三八)二月、地元仲西三良代議士から衆議院に矢吹ヶ原国営開墾促進に関する建議案が提案され、六月四日農林省関係当局による羽島水源地利権開墾予定地の視察が行われ、昭和十五年(一九四〇)計画及び予算が衆議院を通過、戦後もその開発は引継がれていった。仲西三良代議士は国政を通じて矢吹ヶ原の開発に尽した。



衆議院議員 仲西三良

(昭和 11. 2.20)
(昭和 12. 4.30)
(昭和 17. 4.30)



矢吹町役場(大正15年建設)
昭和50年まで使用されていた。



県会議員 大木代吉

(昭和 10. 6) 補
(昭和 10. 9) 1期
(昭和 10. 9) 2期
(昭和 14. 9) 3期
(昭和 14. 9)
(昭和 18. 9)
(昭和 21. 9)



県会議員 岡崎長一郎

(昭和 6. 9)
(昭和 7. 10)



矢吹町長 仲西三良

(昭和 5.12.16)
(昭和 20.12.24) 4期

昭和はじめての町村長



昭和三年ころの矢吹町市街地
(航空写真)

町村別戸数人員表

(昭和10年10月1日現在)

町村名	人 口	世帯数
中 畑 村	2,451	448
三 神 村	2,816	484
矢 吹 町	4,347	782

(昭和10年国勢調査から)

中
畑
村
長



10代 岡崎長一郎
14代

(大正 7. 9.11)
(昭和 2. 9.18)
(昭和 20. 6.18)
(昭和 21. 8.15)



13代 小針弥太郎

(昭和 15. 2. 1)
(昭和 20. 3.30)



12代 蛭田三之丞

(昭和 7. 1.23)
(昭和 15. 1.22)



11代 青木運六郎

(昭和 2.10.28)
(昭和 6.10.27)

旧中畑村役場
大正十四年(一九二五)五月に建てられた中畑村役場である。昭和三十年(一九五五)の町村合併後、数年は矢吹支所として使用されたが、現在は廃止されている。



三神村役場

大正12年4月三城目に新築し、戦後の昭和28年ころまで使用され、その後さらに新築された。現在は三神農協の一部として使用されている。

三
神
村
長



藤井英由

(昭和 20. 6)
(昭和 22.)



酒井寅三郎

(大正 15.11)
(昭和 20. 5)

矢吹ヶ原開拓

昭和十年、県では矢吹ヶ原開墾事務所を設置し、東北地方集団農耕地開発事業助成要綱による国庫補助を得て、矢吹ヶ原の開墾事業を開始した。

矢吹ヶ原開拓は、入植前は国営農区で、キジ・山ドリ・ウサギ・キツネ・リスなどがたくさんいた。つい最近までキツネの声が聞こえていたといわれる。昭和十一年五月二十七日、第一次入植者四名が中畑弥栄に入植。その後昭和十二年(第二次)三神弥栄に一八戸、中畑柏山に五戸、川崎村十軒前(現在泉崎村)の計七十八戸が入植した。



矢吹ヶ原開拓当時の中畑弥栄部落



現在の三神弥栄開拓 三神弥栄開拓も、中畑弥栄と同じ時期に、同じく県営事業として行われ、18戸が入植した。



抜根された大松の根

抜根も開墾も、手掘りが主であった。カリーット爆破による抜根も行われた。

入植者は、入植した当初1年間矢吹ヶ原修練農場で訓練を受けた。これは入植式を行った時の記念写真である。(昭和十一年5月27日)

訓練を受けた後、三棟の共同宿舎に分宿し、開墾に入った。当初は男性のみであった。昭和十一年(1936)5月、弥栄神社境内で、宅地配分の抽せんを行った。

弥栄神社は、昭和十五年4月13日伊勢豊受太神宮から分霊し、同十五年4月22日社殿を建立して、弥栄部落の氏神となった。



現在の大池開拓(矢吹原移住組合大池班)大池開拓は昭和十八年、日畜の所有地と県有地を交換し、自作農創設事業として行われた。大池地区には、10軒の開拓者が入植した。1戸当り耕地2.4ヘクタール、山林1ヘクタール、宅地10アールの経営規模で、畑作(とうもろこし・陸稻・麦類・なたね)が中心であった。和牛1頭あて供与された。



矢吹ヶ原開墾第二回入植者募集
昭和十二年五月二十五日
付 福島民報「この時、三神村弥栄・中畑村柏山に入植した。」





矢吹ガ原開墾地に初めて種を蒔く入植者たち 前方は鳥場山

弥栄開墾入植者は、それぞれに1戸当り宅地5アール、畑3ヘクタール、水田12アール、山林1.2ヘクタールの配分を受けた。畑作が中心で、麦類・菜種・陸稲・とうもろこしが主要な作物であった。

昭和12年の中畑弥栄開墾入植者は48名で、弥栄産業組合を設立し、その後矢吹ガ原開墾に入植した。三神弥栄・中畑柏山・川崎・十軒前に入植者で保証責任弥栄信用購買販売組合を設立し、農業経営の拡充強化をはかった。



協力拓楽土碑 昭和13年(1938)5月14日15日、晩霜のため、畑作物特に小麦・菜種・馬鈴薯などの収穫は皆無となり、肥料代や県信連からの借金の返済も出来ず、一時は呆然自失し、中には離農を口にするものもあった。しかし、入植当時組織した弥栄産業組合を巧みに利用運営して、難局を見事に突破して楽土安住の地を建設した(協力拓楽土碑文から)。協力拓楽土の碑は昭和25年に建立された。

これは、昭和13年ころ和牛借入れした時の写真である。遠く弥栄部落の住宅が見える。

昭和15年西白河郡で一番早く乳牛18頭を県農耕資金により1頭約250円で導入し酪農組合を設立、畜産・サイロなどを整備し、福島工場(福島市)へ毎朝送乳した。



弥栄入植15周年記念(昭和25年12月13日)

昭和22年(1947)8月19日、天皇陛下の行幸があり激励の言葉を賜った。昭和25年、入植15周年に当り、当事の大竹作摩果知事の題詞と撰文を得て、記念碑を建立し、盛大な記念式を挙行政した。

昭和30年に羽鳥ダムが完成し、通水が行われ、矢吹ガ原にも待望の水が流れ、1戸当り1.5ヘクタールの水田が出来た。現在幅9.1メートルのの道路の東側牡丹池附近に工場も誘致され、農工一体の町づくりと歩調を合せて、発展を続けている。



修 練 農 場

昭和五年から米価の暴落、豊作貧乏、飢饉、同六・七年の凶作と農村の荒廃はひどかった。昭和六年に満州事変、昭和七年に上海事変が起るなど、国際的にも行き詰った。政府はその打開策として、農村の自力更生をとる救済更生運動を全国的に起した。県もそれにならって、経済更生課をつくり、農村更生施設として農民道場をつくり、中堅農民を養成することになった。

昭和九年十一月一日、矢吹が原陣場地内約九〇ヘクタールに、県立修練農場を



創立当時の修練場玄関
(昭和10年開場を記念して、絵はがきが発行された。)



福島県立修練農場の全景



農場生の軍事訓練(昭和15年ころ)



日輪宿舎(勤労訓練所)

太平洋戦争末期に、国民徴用令によって、本県の軍人以外の者を徴用し、軍需工場に派遣した。これはそのために事前の基礎訓練をした宿舎である。所在地は矢吹町一本木(現 福島県農業経営大学校内)

つくった。同十一年に満州開拓訓練所併設、昭和十八年に県立矢吹が原修練農場となり、二十五年四月に矢吹が原経営伝習農場となり、四十一年四月福島県高等農業学園が併設されるなど、「共同企業する農業へ、楽しい農業へ」をモットーに、先駆的農業経営者を養成するのに必要な技術を習得させている。福島県農業経営研究所(昭和四十九年四月改称)・附属農村青年研修館・農業機械化指導センターなどが設置されている。(所在地は矢吹町大字矢吹字一本木四四六)



修練農場生の食事風景



農場生の田植(昭和十五年ころ)

戦時体制下の矢吹
矢吹ガ原飛行場



矢吹ガ原の展望

矢吹ガ原は昭和3年(1928)ころから盛んに国営開田の計画が進められるようになった。そこで、矢吹町当局においては、将来矢吹町の発展を期して、矢吹ガ原の3,000ヘクタールの原野一帯の開田を目的とし、矢吹町有志の面々も種々考案しはじめた。

将来の矢吹町を広く知ってもらうためには、航空思想普及宣伝を兼ねた宣伝方法を考えて、東京朝日新聞社を訪問して交渉したところ、早速、会社では快

諾して、同年9月23日、新聞社の飛行機は県南方部の矢吹を上空から訪問して来た。朝日新聞社の飛行は、矢吹ガ原の上空を数回低空飛行して旋回しながら着陸した。当時は空飛ぶ機体を目の前に見られることは非常に珍しく、近郷近在の人々は腰に「ムスビ」をぶら下げて見物に来た。このときの観衆は、5万人を越えたという。



陸軍熊谷飛行学校矢吹分教所の西門



陸軍熊谷飛行学校矢吹分教所の入口(石川通り)



飛行場完成までの工事状況



昭和9年10月、海軍機「報国号」と陸軍機「愛国号」が飛来した。そのとき、矢吹ヶ原に着陸し、数千の観衆が集まった。



矢吹ヶ原飛行場
昭和14年ころは格納庫3棟もできて、いよいよ戦時体制に入っていた。(昭和16年ころの写真)



日支事変従軍徴用馬供養碑(昭和十二年)

軍事徴用馬訓練校閲状況
(五本松並木において)
補充兵も同様にして訓練を受けた



開場式 日中国交悪化のきざしを予想して、昭和12年(1937)矢吹ヶ原に陸軍飛行場を設置し、同年5月23日、華々しく開場式が行われた。陸軍能谷飛行学校矢吹分校から陸軍能谷飛行学校矢吹教育隊となり、終戦間近には矢吹教育隊(紺)540部隊が駐屯していた。



雪中の査閲

昭和12年(1937)3月10日陸軍記念日に、青年学校と補充兵が西白河・岩瀬の両郡にわたって発火演習を行った。これは、演習終了後、矢吹管内連合青年訓練の査閲の状況である。(馬上は査閲官相楽中佐)

防空演習と隣組

昭和十二年（一九三七）七月、日中戦争が起り、十三年には国家総動員法が公布され、産業報告会が創立され、一月十日には各村に警防団が誕生した。同十四年（一九三九）にはノモンハン事件が起り、日ソ両国が衝突し、九月にヨーロッパ戦争が始まった。

独のポーランド侵入により第二次世界大戦への第一歩を進み出した。十五年には日・独・伊三国軍事同盟が成立し、九月十一日には、全国的に隣組制がしかれて、戦争は益々悪化の一途をたどるに至った。写真は防空訓練の様子である。

防空演習（昭和十七年）



防火（防空）演習隣組（昭和十七年）



戦争たけなわになるにつれて、昭和十五年（一九四〇）五月十日には、米供出制が実施され、その他あらゆる物資が統制されることになった。写真は国防婦人会々が戦地へ送る梅干の梱包風景である。

軍用大麥・米・雑穀などの供出作業状況



軍用乾草取りまとめ作業風景（昭和十五年十月）



婦人射撃訓練（国防婦人会）

戦中の生活

配給と物資難



戦勝祈願祭 三神小学校奉安庫前にて (昭和17年)



出征兵士記念撮影

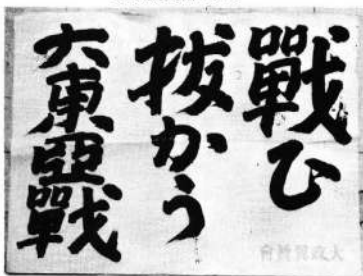


出征兵士に送る国旗への激励の寄せ書 (昭和19年9月)

昭和16年(1941)日本はハワイ真珠湾を奇襲し、米英に宣戦を布告するに及んで、ついに太平洋戦争に拡大した。しかし緒戦の攻勢も東の間で17年にはミッドウェー海戦、第二ソロモン沖海戦と、戦況は不利となる。大東亜省が設置され、国を挙げて一切を戦争に傾ける事となり、日に日に出征軍人の数が増え、国民は戦事訓練や戦勝祈願に明けくれた。



大政翼賛会ポスター



戦争完遂のため国民総貯蓄一二〇億円達成運動ピラ



昭和十五年(一九四〇)―昭和二十年(一九四五)の戦時中、政府への協力機関として発足した。大日本産業報国会・大日本婦人会・部落会・町内会などを指導下におき、国家総動員体制の中核となった。

大政翼賛会





戦争の傷跡（松の木の幹）

輸送用の燃料を補うために、松根油を精製するようになって、松の太木の幹から写真のように切り採った。

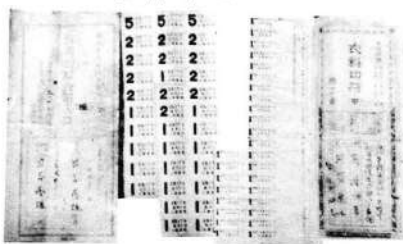


配給通帳



購入票

衣料切布



戦争による物資の欠乏にともなって、配給切符制となり、家庭用品から衣服に至るまで、切符で買うことになった。



学校養蚕飼育（矢吹小学校）
学校の生徒もお国のためにと、養蚕飼育に助んだ。（昭和十八年九月）

学童疎開

本土空襲が盛んになるに及んで、昭和十九年（一九四四）東京・名古屋などに疎開命令が出され、五月には学校は工場化され、七月十七日には学童集団疎開が実施されるに至った。矢吹町にも、東京都目黒区第四国民学校児童二五〇名が疎開し、各旅館や家庭に分散して勉強することになった。



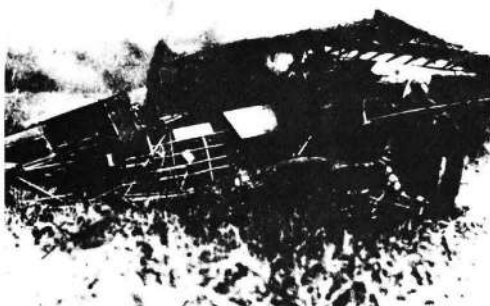
学童疎開 東京上目黒小学校の児童

矢 吹 空 襲

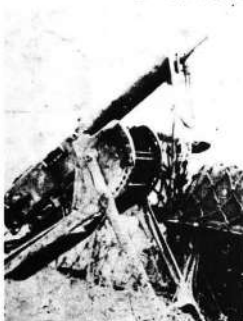
昭和二十年（一九一五）四月、米軍機グラマンF6Fが来襲した。大池北側農家の和牛が機銃掃射を受けた。同年七月十六日朝七時から昼ころまで、断続的にボーイングB29三機から空襲を受けた。また、飛行場を目標けてグラマンF6F艦載機が、二〇キログラム一五〇キログラムの爆弾を投下した。修練農場や矢吹市街地も機銃掃射を受け、兵士三名が負傷した。同二十年八月六日朝十時ころ、二機のグラマンF6Fが東北本線上り列車を機銃掃射した。汽車は停車し乗客は背丈ほどに伸びたともろこし畑にのがれた。



爆弾のさく烈



昭和20年、矢吹飛行場を目標けて米軍グラマンF6F機が20キログラム～50キログラムの爆弾を投下した。格納庫や日本軍飛行機などが破壊された。写真は矢吹飛行場における飛行機の残骸である。



高射機銃

爆撃から避難するため、防空壕が矢吹町内各地区につくられた。



爆 弾 の 破 片

戦争はいよいよ悪化し、昭和20年(1945)1月には本土の都市は連続的に空襲され、5月に入ると遂に矢吹町、特に飛行場への空襲が熾烈となった。写真は爆弾が投下されたときの破片である。



戦争の傷あと



特別攻撃決死隊長陸軍少尉杉戸勝平出陣に臨んでの辞世の漢詩（昭和20年4月5日）
当時宿舎だった古川屋の卓の裏面に記してあった。



昭忠碑（矢吹神社境内）
矢吹神社境内の昭忠碑には、日清・日露・日支事変及び第二次世界大戦による戦没者二二一名の名が刻まれている。

日支事変・第二次世界大戦による戦没者数

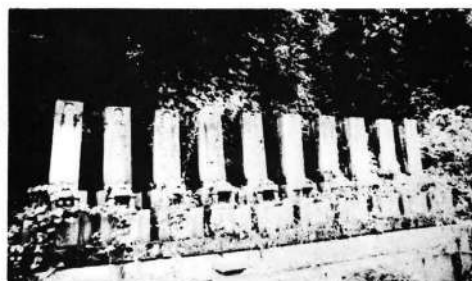
戦争	三神村	中畑村	矢吹町 (穂之内含む)
日中戦争	9	8	11
第二次世界大戦	91	90	207
計	100	98	218



日支事変・大東亜戦争従軍記念碑（中畑八幡神社）



戦没者誠忠記念碑（三城目学校山）
支那事変・大東亜戦争による戦没者100名の名が刻まれている。



第二次世界大戦において戦没された勇士の墓（大和久）
矢吹町内各地にこうした墓が建っている。

昭和(戦前)の文芸

昭和十五年ころ、熊谷陸軍飛行学校矢吹分校矢吹教育隊隊歌の発表のため、作曲家山田耕柞が来町した。作詞は土岐善麿である。



作曲家 山田耕柞

「土の香」(ガリ版印刷)

昭和三年ころ、三神青年団の若者たちが綴った文集「土の香」は題名のように、素朴な、そして当時の農村青年団員の気合いが感じられる貴重な記録であったといわれている。そして、この文集は、昭和三年ころから昭和十五年ころまで続けられたといわれている。また、矢吹の渡辺正昭は昭和十九年から二十一年にかけて「盟友」という文芸誌を出した。戦争中は憲兵から、「土の香」も「盟友」も現物を見つけないことはできなかった。



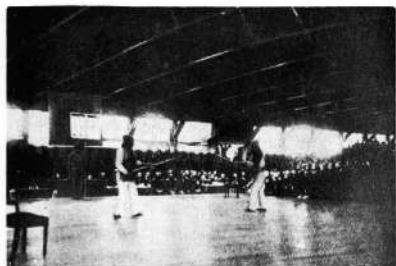
俳誌「土筆」



昭和十年(一九三五)
「土筆」俳句の会の人々

旧矢吹町の野木鶴石(勇、医師)は明治時代より山樴子・秋人などの名で俳句を作り、俳誌「桔梗」に投句、昭和九年より中央誌「鹿火屋」により、俳誌「土筆」を出して(昭和十年)同人を集めて指導した(昭和二十年五月五日(三歳)没)。

西白河郡連合青年団陸上競技で、3年連続優勝。同剣道でも3年連続して優勝し、優勝旗を獲得したときの三神村青年団の記念写真。(昭和2年ころ)



昭和4年5月、皇居内で行われた御大礼記念武道大会天覧試合の銃剣術試合では、矢吹町出身の太本健次郎中佐が審判員をつとめた。



昭和の初期、テニス試合に優勝。その受賞記念。



昭和15年(1940)～昭和16年(1941)ころ、三神国民学校大運動会(三神小学校庭において)剣道の演技。

全日本青年学校相撲大会福島県予選大会で団体優勝したときの記念写真(中畑チーム)

昭和18年(1943)～25年(1950)ころまでは、アマチュア相撲の全盛時代で、昭和18年県下大会で決勝戦に常磐炭鉱チームを破り優勝した。
先鋒—井戸沼綱義 中堅—井戸沼俊顕
大将—薄葉重太郎 補欠—増田留治



天皇巡視

戦後の民情御視察のため東北各県を巡視され、昭和二十二年（一九四七）八月十九日に矢吹修練農場と栄開墾地を視察された。



県立矢吹修練農場事務所
の玄関を出られたところ。



御 野 立 所
矢吹カ原開墾地を展望



新制三神中学校は昭和22年4月1日三神小学校に併設され、校舎は31年6月落成。40年4月1日現在の矢吹中学校に統合された。



新制中畑中学校は昭和22年4月1日中畑小学校に併設され、校舎は24年10月7日落成。40年4月1日から現在の矢吹中学校に統合された。



統合中学校々舎
(昭和43年4月1日開校)

新制矢吹中学校は昭和22年4月1日矢吹小学校に併設され、校舎は昭和23年旧矢吹飛行場跡地に建築された。昭和40年4月1日、現在の矢吹中学校に三神・中畑・矢吹各中学校が統合された。

県立白河農高矢吹分校

県立白河第二高等学校矢吹分校として昭和二十四年（一九四九）に農業科と家庭科とで発足し、昭和二十八年県立白河農業高等学校が開校、同矢吹分校と名称変更され、さらに昭和三十四年中に校名変更により県立白河農工高等学校矢吹分校となり、昭和四十七年（一九七二）四月一日、学校移管により校名変更し、福島県立白河高等学校矢吹分校となった。従って、農業科と家庭科は廃止されて、普通科課程となった。

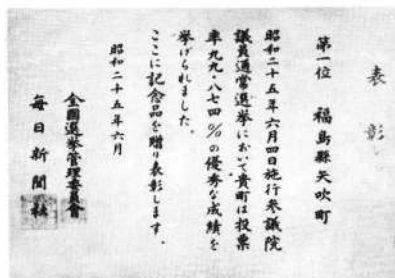
福島県立白河農業高校矢吹分校々舎
この校舎は横街道八番地にあった時
（昭和二十四年・昭和三十四年）



福島県立白河農業高等学校



稲荷釜18番地にある白河高等学校矢吹分校として、普通科課程になった現在の校舎。



参議院議員選挙投票率日本1位
（昭和25年6月）



投票率99.874%の優秀な成績
を示す表彰の記念
（昭和25年6月4日）

昭和49年6月 参議院議員選挙
立会演説会風景
（矢吹町民体育館において）



福島県知事選挙投票風景

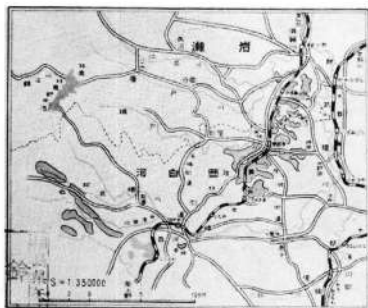
羽鳥用水と矢吹高原

羽鳥ダムの通水

矢吹高原はかつて広大な原野であったが、戦後になって急速に開拓が進み、現在では豊かな穀倉地帯を形成している。開拓が急速に進んだのは、幾多の経過を経て終戦と共に着工した羽鳥ダムが完成し、水が豊富に供給されるようになったためである。かつては八七〇ヘクタール程しかなかった水田が、羽鳥ダム完成後は一挙に一、四六七ヘクタールとふくれあがり、また雑木林も牧草地や畑地となり、畜産も盛んになり、さらに野菜の生産も多くなった。



羽鳥ダム水源地視察記念写真 鶴沼川上流（昭和15年10月10日）



農林省白河矢吹開拓事業概要図



国営開田後援会の組織と趣意書



矢吹高原国営開墾事務所 農林省矢吹高原国営開拓事務所は、昭和16年(1941)西白河郡矢吹原開拓(旧矢吹町・中畑村・三神村・泉崎村踏瀬)及び岩瀬郡にわたる水田開拓のため、農林省が設立したものである。矢吹町石川通り(一本木)

御料地は、昭和十年一月十日宮内省より本県に払下げを受け、県営で開墾を始めた。更には昭和十五年三月、地方民の意願であった矢吹高原の開墾が国営で行う件が国会で決まり、矢吹町では八〇九・八一ヘクタール(開田五〇九・三二ヘクタール)の開墾となった。戦後、本格的にこの工事が再開された結果、昭和三十年ついに羽鳥ダムの通水式にこぎつけ、開田工事が急速に進んだ。



完成した矢吹ガ原開拓水田



「世紀の大事業」と、その完成を祝福する当時の新聞



羽鳥ダム

国営土地改良事業によって、西白河郡大信村・泉崎村・矢吹町・岩瀬郡鏡石町、須賀川市の区域が開田開畑され、その面積は2,296.14ヘクタール、内、開田面積は1,070.99ヘクタール、土地改良田529.01ヘクタールの計1,600ヘクタールである。総事業費28億145万9751円の大事業であった。この事業(工期)は、昭和16年4月から昭和39年9月までの長期にわたった。

戦後、入植戸数は503戸、増反戸数は1,810戸であった。この事業により開田された面積は、下記のとおりである。

市町村名	開 田		計	開 畑	計
	開 拓	土 地 改 良 (地目変換田)			
大 信 村	41.02町	13.21町	54.23町	17.77町	72.00町
泉 崎 村	180.99	74.42	255.41	99.06	354.47
矢 吹 町	439.76	151.24	591.00	179.37	770.37
鏡 石 町	384.22	223.27	607.49	219.51	827.00
須 賀 川 市	25.00	66.87	91.87	37.19	129.06
計	1,070.99	529.01	1,600.00	552.90	2,152.90



湖底に沈んでいった羽鳥部落

戦後の矢吹ガ原開拓



矢吹ガ原開拓地 航空写真（昭和48年10月）

戦後の矢吹ガ原の開拓は、敗戦による国家国民経済の崩壊からたちあがるための施策「緊急開拓事業実施要領」（昭和二十年十一月九日閣議決定）による食糧増産対策と引揚者・被災者等の増産対策の一端として行われた。日本の農業にとって、画期的変革をもたらした農地改革とあいまって実施された。矢吹ガ原は元宮内省の御料地で、戦時中は陸軍飛行場として使用された、草も生えない赤裸の大地であった。旧日畜管理の禁猟地はいわゆる草刈場といわれ、かつてはキジや小動物がたぐいさん繁殖していた。秋には初茸その他の茸類の産地であった。しかし地質は火山灰の軽しよう土で、熟田になるまでは辛苦を重ねた。「開拓二十年のあゆみ」（矢吹ガ原開拓農協編纂）によると、昭和二十年、入植者一〇〇名が岩瀬郡鏡石村駅前で共同宿舎に入り訓練を受け、その後は各開拓地に入植し、一部共同生活を営んで、更に抽選による個人配分の決定、各自開墾作業、住宅建設、作付けなど、開拓者としての作業を開始した。当時はランブ生活、ドラムかん風呂もなく、春先の那須おろしによる風塵は、太陽を覆うようなこともあり、にかく手に豆をつくり、汗を流して、食糧の自給につとめた。主要作物は陸稲、麦類、とうもろこし、菜種、馬鈴薯などであった。

昭和二十三年ころから各単位の開拓農協組合が設立され、補助、資金融資を受けた。その後出資組合である西白河郡開拓農協が設立され、二重加入

した。昭和二十八年、二十九年の冷害により、開拓者資金（冷害資金）の融資を受けた。昭和二十九年、羽鳥ダムの完成により、畑作中心から水田・畑作経営、酪農・養豚経営へと多角化していった。今では矢吹ガ原も立派な水田地帯に生れ変わった。



戦車改造トラクターによる耕地作業
（福島県戦後開拓史から）
戦後矢吹ガ原の開墾も、このトラクターによって行われた。

戦後の入植開拓

●矢吹ヶ原開拓は矢吹ヶ原を中心に、旧陸軍飛行場跡約一〇〇ヘクタール余に、四八戸の大世帯が入植した一般入植の外、羽島ダム建設による移転者、旧軍人関係者などであった。矢吹開拓は、大和久・中畑新田地区で約三〇ヘクタールに二〇戸が入植した。

●北善郷内開拓は、約五〇ヘクタールの元宮内省御料地(日審管理)に、一七戸が入植し、その外、増反者に払い下げられた。

●狐石開拓は、前橋官林局の国有地を矢吹町農地委員会が二・三男対策・引揚復員者の入植対策の一環として、解放申請により払下げ、引揚復員者・満蒙引揚者・地元入植者一二戸が入植した。



矢吹ヶ原飛行場跡地に入植した当時の家。現在はない。(昭和35年ころ)

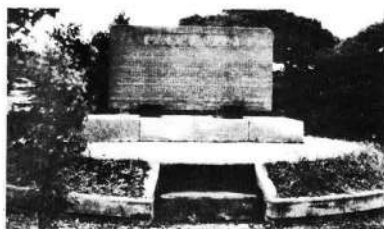


戦後の開拓農家の風景(昭和33年ころ)

矢吹町を中心に、須賀川市・鏡石町・泉崎村、大信村にまたがる1,600ヘクタールの開田と553ヘクタールの開畑を行い、入植503戸、増反1,810ヘクタールの営農を確立した。



開拓の記念碑(三城目西原)



開拓の碑(大池公園地内)

戦後、開墾事業が次々と行われ(昭和二十年には北善郷内・矢吹新田(同二十年)・赤坂西(同二十二年)・三神地区(同二十四年)・耕地面積が広まったが、このうち矢吹ヶ原開墾は元飛行場の開墾で、入植者の約半数は復員者と羽島から移住した者が主で、一戸当たり二町歩、山林一町歩弱(共有林)で開墾を始めたが、入植後数年間は食糧がなくて窮乏し苦労したという。このように開田開畑が行われたので、耕地が次表のようになった。

年次	田	畑
明治四十二年	七、八四反	八、三二反
昭和二〇年	八、〇〇元	二、五八元
同三五年	二、五五元	二、三九元
同四一年	一、四五二	一、〇三三

農業協同組合の設立

戦後の昭和二十三年に発足した農業協同組合が、主要食糧の供出を一手に引き受けた関係もあって、農業の指導的立場に立つようになったが、農業改良指導所の開所と関連して、営農指導に積極的に乗り出した。中畑農協の例をみると、昭和二十四年、供出物資と肥料登録を全農家より受け、同二十五年度より肥料の購買事業に力を入れた結果、自由経済になった昭和二十七年には、販売事業が超過供出五〇〇〇俵、とうもろこし七〇〇〇俵、ななね二八〇〇俵と急増し、同二十九年には、種子とうもろこしの販売は、県内の六七パーセントを産し、特産地としての名声が高まった。昭和三十年は豊作であったが、この年より今までの主要食糧増産第一主義が後退し、酪農畜産を導入して、畑作の振興など、多角的事業へ営農指導が転換してきた。

畑作である、とうもろこし（昭和二十三年作付面積六六反、収穫六、一トマ）^{昭和二十七年四月、四四〇反}、きゅうり^{昭和二十三年作付面積二二反、収穫二、二トマ}、トマト^{昭和二十三年作付面積二二反、収穫二、二トマ}は共同出荷で東京市場へ出し、好成績をおさめているが、そのほかアスパラガス^{昭和二十七年四月、四四〇反}、ホップ^{昭和二十七年四月、四四〇反}などの栽培もはじめた。たばこ、こんにやく、いも、蒟蒻は従来どおり相当の収量があり、また家畜市場の開設とともに豚の飼育も盛んになった。

矢吹農業協同組合



中畑農業協同組合



三神農業協同組合



三神中央農業協同組合



昭和四十一年 矢吹町主要産業統計表

産業別	生産額	生産物
一	位	米
二	位	小麦
三	位	食料品工業
四	位	畜産
五	位	林産物
六	位	工業物
七	位	工業物

日本酪農講習所

昭和二十二年四月、矢吹町に日本酪農講習所ができた。そのころより酪農振興の声が高まり、昭和二十四年三月に矢吹方部酪農組合ができ、同三十五年二月に矢吹牛乳処理所ができ、乳牛も昭和二十五年三六頭より同三十四年九二頭（五頭乳牛）^{昭和二十五年四月、四四〇反}、同四十年飼育戸数三一〇戸、五八八頭と飛躍的な伸びをみせ、牧草地も昭和三十六年牧草地面積五五一反、収穫量一九四四トシ、同四十年七四〇反、三六一六トシと順調な伸びを示している。

三神農協は、昭和49年3月1日白河地方広域圏化(西白河郡内の一体化)農協合併の気運盛上りのなかで、白河農協に合併した。そして、白河農協三神事業所として発足した。



発足当時の酪農講習所全景（昭和22年4月）



サイロと牛舎



サイロ用の
トウモロコシの刈取り



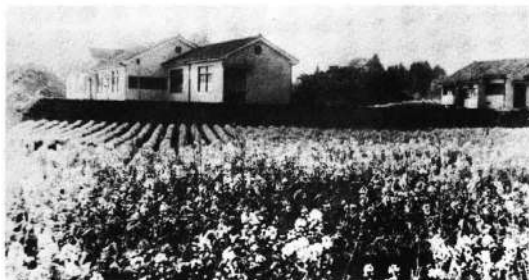
家畜診療所(中畑村弥栄)
(昭和24年12月)



職業補導所
旧日輪兵舎は昭和21年3月から職業補導所となった。



福島県南酪農組合 昭和34年、矢吹町酪農組合は、新農村建設事業として牛乳処理所を建設し、矢吹、中畑、三神の3酪農組合により、牛乳処理を行った。48年度総生産乳量は1550,502キログラム)



旧中畑村国民健康保険直営診療所
昭和27年4月28日創設。昭和38年ころ廃止となり、昭和40年4月に建物の一部を改築して、矢吹町立中畑幼稚園となった。

四、ゆたかな町づくりへの出発

町村合併へのうごき

昭和三十年（一九五五）四月一日矢吹町・中畑村・三神村、さらに岩瀬郡広戸村の柿之内地区を合併して、新しい矢吹町が誕生した。

矢吹町長

（合併前）

三神村長



大木代吉
(昭和21.2.1)
(昭和22.7.10)
(昭和26.7.11)
(昭和28.10.13) (死亡)



仲西正次
(昭和22.7.10)
(昭和26.7.10)



（合併前）
野木忠房
(昭和28.11.)
(昭和30.3.30)



合併前
浅川和茂
(昭和22.4.4)
(昭和26.3.26)



（合併前）
渡辺欣吾
(昭和26.5.7)
(昭和30.3.30)
矢吹町長職務執行者
(昭和30.3.31)
(昭和30.4.29)



（合併前）
後藤幹
(昭和21.9.1)
(昭和30.3.30)

中畑村長

合併時の町議会議員（昭和30年）

矢部治平	吉田兼蔵	蛭田正次
円谷昌幸	渡辺正蔵	山口源治
松谷寿	佐藤常三郎	酒井竜次
井兵庫雄	野崎朝一	田中喜造
藤田正雄	笹川幸一	鶴岡一長
水戸勲衛	薄葉喜与	円谷正義
飯島藤房	坂路重成	岡崎徳重郎
佐藤重治	星直右衛門	佐久間俊勝
小川吉重	堀井清治	遠藤勇
大沼力雄	内藤武雄	安藤徳蔵
諸根文治	加藤源蔵	須藤一
浅川竜作	円谷多市郎	水野谷富江
関根由己	関根平一郎	高久勇次郎
笹川正夫	蛭田平十	井上正
井戸沼市三	近藤正三	太田義衛
吉田勇寿	星野義雄	小磯勝之丞
高久友蔵	円谷浩一	小針三男
富永栄太郎	佐藤吉之助	柏村重五郎
藤井隆次	石川伝次郎	泉川勝雄



町村合併祝賀式の乾杯（旧矢吹中学校講堂において）



町会議員満了記念撮影



大木代吉

(昭和 38. 4. 30)
(昭和 46. 4. 29)

2 期



矢吹町村合併初代町長

野木忠房

(昭和 30. 4. 30)
(昭和 38. 3. 31)



福祉の町矢吹

旧矢吹町は昭和二十五年より公営住宅の建設を進め(昭和四十二年までに二二五戸建設)、竹芸品受産所(昭和二十五年)・保育所(同二十六年)・幼稚園(同二十八年)・母子寮(同年)など、社会福祉事業を進め、昭和三十年三月三十一日新矢吹町が誕生してから、後保護指導所(昭和三十年)・精神病院(同年)・矢吹救護院天風寮(同三十六年六月)・矢吹更生寮(同三十七年十一月)がそれぞれ開所し、社会福祉の町として発展してきた。

更に、新四号国道の完成(昭和三十一年四月郡山・白河間)、東北本線電化(同年三月白河・福島間)と複線化(同三十八年三月白河・郡山間)をはじめ、急行バスの運行と交通の発達により、わが町の商工業も商工会館落成(同三十九年二月)、矢吹デパート開店(同年八月)など発展を遂げ、このこと相俟って、矢吹町も都市計画・国土調査による町の整備(三地区とも旧米重点施策の一つとしてきた土木事業・道路改修・ため池の改修・橋のかけかえー特に三神地区では、阿武隈川の堤防づくりなどを集大成した農業改良事業の基礎調査としての事業)・上水道の完成・工場誘致などにより大きく発展しようとしている。



竹細工作業風景

昭和25年6月1日申請 昭和25年9月15日開設
所在地一矢吹町字西側77
事業内容一竹細工 縫製授産事業



社会福祉法人矢吹町社会福祉協議会
竹工芸品授産所 (昭和25年開所)



縫製授産所



矢吹原土地改良区 (昭和29年開設)



三神診療所 (昭和28年10月開設)



矢吹町農業共済組合 矢吹・中畑・三神各農業
共済組合が合併開設 (昭和31年3月20日開設)



児童福祉施設矢吹町母子寮 (昭和28年5月25日開設)



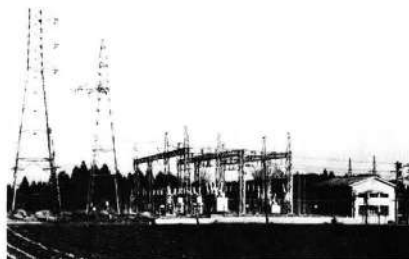
県立矢吹病院（昭和30年11月開院）



矢吹町救護院天風寮（昭和36年6月開院）
現在は社会福祉法人経営。



福島県矢吹更生寮（昭和37年11月開設）
社会福祉法人福祉事業団



東北電力株式会社矢吹変電所
（昭和27年10月開設）



第一苗圃作業風景



農林省前橋営林局白河営林署矢吹第一苗圃



第二苗圃遠景

農業の変容

農地解放により農村は民主化し、農民の生産意欲は向上し、新しい技術が取入れられ、生産も著しく高められた。
しかし、食糧事情が好転すると、米を除いては相次いで統制が徹底され、当地方の畑作を中心とする地域では、大きい転換期を迎えた。



昭和28年当時の松倉地区



保温折衷苗代



昭和28年ころ、水稻の病虫害防除が普及し、やがて共同防除が行われるようになった、これは中畑文化協会が中心となつて行われたときの写真である。また昭和28年・29年と冷害に見舞われ、イモチ病の大発生があった。



昭和四十二年八月と四十三年八月に、ヘリコプターによる防除が行われた。



畜力による農作業



農林大臣賞を受賞した「畜力農機具改良考案」

矢吹町では、県より農業振興研究村(田中畑村)、農業機械化指定部落(田中畑村稲荷釜)、畑作改善當農試験地(田中畑村弥栄)などの指定を受けた。そして、その成果も向上しつつあった。
なかでも、田中畑村弥栄の根岸広吉は、畑作用農器具の改善をなし、その成果が大きいので、昭和三十年十月岩手県盛岡市で開かれた畜力導入経営改善の研究発表で、農林大臣賞を受賞するなど、多大の成果を取めた。

矢吹町における経営耕地の推移（福島県統計）

年次	農家戸数③	総面積①	水田面積	普通畑面積	樹園地面積	1戸当り耕地面積
昭和25年	1,445	2,027 ha	772 ha	1,093 ha	163 ha	1.40 ha
30年	1,568	2,202	774	1,255	173	1.40
35年	1,748	2,521	1,156	1,258	107	1.44
40年	1,710	2,590	1,439	1,027	124	1.51
45年	1,663	2,569	1,505	954	110	1.54
46年	1,650	2,552	1,503	942	107	1.54
47年	1,625	2,548	1,503	928	117	1.57
48年	1,599	2,498	1,522	879	97	1.56

(註) 普通畑は採草地も含む

経営耕地も開墾により、昭和20年～30年にかけて開畑が進み、昭和31年からは羽鳥ダムの通水による開田が飛躍的に進み、1戸当り耕地面積も増加した。



昭和25年当時の矢吹草原

背丈以上に伸びた一面のとうもろこし畑

羽鳥ダムの通水によって、矢吹原は水田地帯に生れ変わった。(現在)



矢吹町における水稲反収の推移

年次	面積	10a当収量	備考
昭和22年	790 ha	297 kg	水田代に人糞尿使用開始。食糧1割増産運動始まる。
23年	826	292	アイオン台風県下全粒被害
24年	841	312	キティ台風中通り・浜通りに被害。
25年	783	296	保原折衷産代の普及。農業指導運動推進。
26年	803	283	農農1割増産運動。水稲除虫剤2.4Dの普及。
27年	787	354	水稲農林21号作付け大幅に伸びる。
28年	780	200	県下にイモチ病大発生(東北地方大冷害)
29年	780	321	化成肥料著しく普及。水稲の穂粒増える。 ヤシ米値下がり(東京1升188円 福島産1升119円)
30年	901	416	稲・麦・さつまいも大豊作

(農林省福島統計情報事務所調べ)

当地方特有の麦・雑穀類を中心とした経営では生産性も低く、その上価格も不安定であるため、大きな転換期を迎えた。しかし、羽鳥ダムの完成による開田の進捗で、畑作農業から稲作(六〇パーセント)を主体とする農業へ移行し、経営は安定した。耕地の状況を見るに(昭和二十五年対四十五年)、一戸当りの耕地面積は一・二倍に増加し、二町歩以上の農家が三・四パーセントとなっている。なかでも、水田面積が一・九倍、その

上基盤整備が五五パーセント実施され、生産量も二・九倍と著しく増加した。しかし、昭和四十五年度から稲の生産調整政策が進められ、休耕・転作が進められた。畑地・樹園地は開田、一部は公共用地・宅地・工場用地などに転用され、減少をたどっているが、古くからみられた麦・とうもろこし・雑穀・粟類などは少なくなり、園芸作物の導入により、土地利用の集約化がみられる。

このような中で、経営の改善をする農家も多くみられ昭和三十六年度には、矢吹町大和久の根本義正が全国最優秀農家(農業経営部門稲作・酪農・果樹)として、農林大臣賞を受賞した。

二十二年～三十年まで
(矢吹町・中畑村・三神村を含む)

新農村建設事業、広域農業振興事業、農業構造改善事業などにより、生産技術は高度化され、その上経営規模も年々拡大されつつある。
これを農業粗生産額についてみると（昭和三十五年対昭和四十五年）、作物は二・六倍（米作二・五倍、いも類一・四倍、野菜八・二倍、果実四・五倍、工芸作物一・七倍、養蚕二・七倍）となっている。



泉川河川改修がなされ、永久橋が建設された。基盤整備された左は水田、右は畑である。中央には建設された野菜ハウスが、遠くに国神館が見える。

農業構造改善

昭和45年4月から実施された泉川河川改修と中畑地区農業構造改善事業は、昭和47年度からの第一次構造改善により、410ヘクタールが基盤整備され、泉川には13の永久橋が建設された。昭和47年度からの第二次構造改善では、育苗センター、稚蚕共同飼育センター、大型農機具格納庫、野菜採果所各1棟、仔豚供給施設10棟、野菜ハウス12棟、共業肥育豚舎(団地)などが建設された。

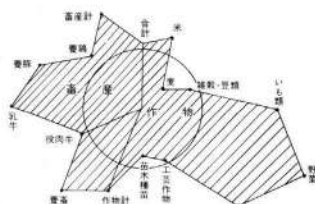
矢吹町における農業粗生産額の推移 (単位 百万円)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
35	米	蚕	上	大	黄	役	小	菜	た	大
	396	50	35	28	21	肉	19	18	14	豆
40	米	蚕	蚕	上	上	生	乳	ト	小	小
	735	214	90	56	51	50	22	22	22	18
45	米	蚕	蚕	上	上	生	乳	ト	小	小
	964	399	151	118	99	88	74	60	45	34
46	米	蚕	蚕	上	上	生	乳	ト	小	小
	792	349	133	115	112	96	70	68	45	38
47	米	蚕	蚕	上	上	生	乳	ト	小	小
	963	467	166	113	110	94	92	89	86	49

(農林省統計情報事務所調)

農業粗生産額の部門別変化

円図40年=100として
斜線部分=45年の伸び



トマト (三神弥栄)



養蚕



きゅうり (三神横石)



たばこ

畜産は昭和三十五年対昭和四十五年一・五・四倍、乳牛八・五倍、養豚一・九倍、養鶏一・一倍となり、近年では役用牛の伸長が七・四倍と著しい。



矢吹家畜市場（矢吹町赤坂地内）
昭和41年10月開場。大林から現在の大和久地内に移転した。



養 豚



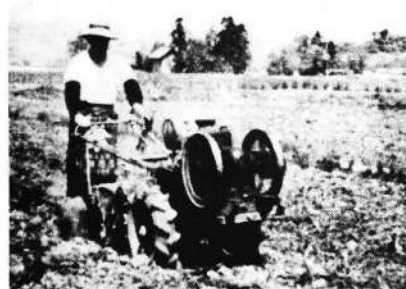
昭和48年9月6日、恒例の矢吹町総合家畜共進会が矢吹家畜市場において行われた。そのときの乳牛の部審査風景。



養 豚 動力耕耘機

生産額の向上と併せて、農家の生活も著しく改善され、生活も高度化され、農村風景も変わった。反面、農家戸数（昭和三十五年対四十五年）は、年々専業農家が少なくななり（一・三パーセント）、兼業化が進み、農業就業人員も二六パーセント少なくなり、農業就業力の確保は工場と事務所の進出などにより、深刻になりつつある。この労働力の不足は、田植機、刈取機など、農作業の機械化を著しく促進し、従来までみられなかった水田の機械化が普及され、一〇アール当り労働時間も著しく減少している。

トラクター





生活改良普及員の活動による三神弥栄地区
の料理講習会（昭和四十五年ころ）

戦後、農村の生活改善・台所改善が行われ、生活様式も大きく変った。
当時（昭和二十五年ころ）中畑村の大畑公民館は、台所改善を行い、県一位に入賞するなど、部落ぐるみ、地区ぐるみの改善が行われた。



中畑農業協同組合種子センター（矢吹町弥栄地内）



育苗センター内部



育苗センター（昭和48年4月完成）



田植機による試験風景
中畑長峰地区（昭和48年4月）



コンバイン作業風景（昭和48年9月）

高度経済成長下の矢吹

工場の進出

工業方面では、矢吹町として工場誘致を強力に進めた結果、昭和四十年一月並木宝石工場、同年三月白河電子工業矢吹工場、同年十月矢吹縫製工場、昭和四十一年四月互光製作所、同年十二月愛国工業株式会社工場、昭和四十二年三月福島化成工場と、次々に落成し、矢吹町発展の一大原動力になろうとしている。このように見えてくると、矢吹町の産業は、交通の発達によって関東圏の仲間入りをするようになり、農業、牧畜ばかりでなく、工業方面にも一段と飛躍がみられ、町発展の明るい見通しがたった。



矢吹町の航空写真（昭和四十年十月撮影）

町内製造事業所名

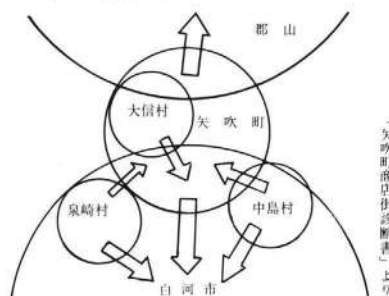
No	企 業 名	所 在 地	従 業 員			主 要 製 品 及 び 加 工	そ の 他
			男	女	季 節 計		
1	曙日高電機矢吹製作所	矢吹字大林165-3	22	12	—	34	合成樹脂成型、ラジオ、テレビその他の部品。
2	昭和電機矢吹事業所	中野目字塚原	27	45	10	82	プラスチック成型加工、ガス、水道メーター部品製造加工
3	愛国工業機矢吹工場	矢吹字西古田70	76	22	4	102	往復機械、ポンプ、金型各種機器
4	福島精密工業	矢吹字花畑山5-8	24	3	—	27	精密工業機械及び器具の製造販売
5	協和光機	中畑字中畑105	21	26	—	47	プラスチック、情報処理業務、光学レンズ
6	東包商事矢吹工場	神田字五太夫塚2	37	10	10	57	紙製品の加工及び印刷事業
7	東北電機矢吹工場	矢吹字小松4-8	37	143	12	192	オーディオプレーヤーヘッド（磁器テープ）
8	柴田コンクリート	中畑字長峰2	5	2	5	12	各種コンクリート製品
9	合資会社真興機械製作所	神田字神田東31	11	3	—	14	水道用メーターケース、水道用ヘルプコック、その他
10	朝日工業機	中畑字大久保48	82	34	—	116	工作機械、その他、カメラ部分組立
11	矢吹アブデン	中畑新田字東端	3	25	19	47	マイクホーン、オートラジオ組立、その他
12	福島サンコット	中畑新田字葛巻1-11	3	30	—	33	繊維製品（ワタデンション、着替ミヤス上着）
13	福島宮島	矢吹字小松16-37	2	12	2	16	婦人・子供スカートの、プレザコート、その他
14	福島互光製作所	矢吹字東古田1	33	67	15	115	金属玩具
15	東都食品工業機福島工場	矢吹字東古田152	25	47	99	171	洋生菓子
16	矢吹精密宝石	中畑新田字西端山	15	23	7	45	時計部品（腕受玉加工）
17	帝國ラケット	須桑字津島前15	9	7	11	27	J字ラケット、L型ラケット、下水流し組
18	東亜道路工業機福島工場	矢吹字東古田16	5	1	—	6	アスファルト製品
19	白河電子工業機矢吹工場	矢吹字柳屋込26	4	38	—	42	小型電解コンデンサー
20	ミツワ工業	須桑字丸ノ内360	44	18	47	109	船舶用ブレイク装置製造
21	東北シャワーリング	須桑字下宮崎361	10	2	—	12	鉄鋼板の加工
22	福島ゴルフウッド矢吹工場	須桑新田字上宮崎21	4	5	6	15	ゴルフウッドベットの、木取、ベッド加工
23	水光化成機	中畑字中畑464	32	39	56	127	農薬防虫薬等製造
24	東洋電子機	矢吹字北喜郷内188	10	60	10	80	車輪回転製作
25	神田山鉄工所	中畑字長峰550	22	—	—	22	鍛工品
26	合資会社安藤製作所	矢吹字小山12	11	4	—	15	樹脂材
27	アリス工業機矢吹工場	矢吹字大林140-2	5	40	—	45	紳士服、ジャケット、ブレザー
28	神田山製材所	矢吹字小山28	4	4	—	8	樹脂材
29	福尾留川木機工業	矢吹字雲森26-1	6	1	7	14	特殊材（バレット、ドラム、オケラット）
30	合資会社大木代吉本店	矢吹字東側	18	5	21	44	酒類

31	藤三光精機製作所	矢吹字花塚山5	13	32	7	52	カーステリオ組立、電器機部品加工	
32	立石木酒造	中畑新田字石川道2の7	5	1	2	8	本館、一般建築材	43. 1 運出
33	藤曲山ブロック工業	矢吹字園谷地29	7	—	—	7	コンクリートブロック	
34	佐藤織機工業	矢吹字大林103-3	1	16	—	17	紳士メリヤス靴	45. 5 〃
35	藤島機械工業所	中畑字堂堂49	9	4	—	13	電機部品の製造（プレス加工）	48. 7 〃
36	都司木材店	矢吹字小松29	3	3	—	6	一般製材	28. 10 〃
37	柳松毛毛紡績工場	矢吹字一本木87	1	15	1	17	織布	21. 11 〃
38	佐久間製作所	神田字神田西134-4	13	24	12	49	V T 部品組立、カセットテープ部品	46. 2 〃
39	大洋製作所	矢吹字北斎町内191の2	11	1	—	12	精密工作機械、卓上精密機盤	44. 2 〃
40	大成産業	中畑新田字東通32-1	2	9	3	14	通信機関係	
41	大八電子	矢吹字大林80-7	3	9	—	12	テープレコーダーヘッド加工	
42	関根電子工業	矢吹字一本木14	3	18	4	25	テープレコーダーヘッドブレイキライニング加工	47. 12 〃
43	大野精密工業	矢吹字西古泊8	3	1	—	4	精密機械部品加工、一般機械	
44	矢吹タイムス	矢吹字東園谷地24-3	1	2	—	3	活版印刷	
45	小林建築工場	中畑字中畑 121		9	4	13	インジスラックス建築加工	
合 計			682	872	374	1,928		48. 6 〃



矢吹町商店街の中心部

表2 商圏図



〔矢吹町商店街診断書〕より

奥州街道の宿場町として栄えてきた矢吹町は、その名残りを留める地域に商店街を形成している。従来は半商半農の形態が多かったが、戦後は農商の分離が進められると同時に、生活の変化、交通事情の発展と関連して、昭和三十五年には一四二店、約二億円の所得を得るようになり、昭和四十五年の診断によれば卸店二七店、小売店二五九店、二億円余となっている。その内訳は表1の通りである。人口当りの商店数は他市町村より多く、他からの購買を期待する点が大いである。商圏は表2のごとく大信村を包含し、中島村の一部を吸引する一方、白河市および郡山市に流出することが多く、今後の発展に大きな課題を残している。

矢 吹 町	商店数 45年	構成比 45年(%)	平 均 販売数
1 卸 売 業	27		
2 小 売 業	259	100.0	681.0
(1) 各 種 小 売 業	4	10.1	4,468.5
(2) 織物衣服・身のまわり品	38	14.4	669.1
(3) 飲 食 料 品	121	36.5	531.8
(4) 自動車・自転車荷車	18	3.0	291.1
(5) 家具・建具・什器(電気)	30	12.6	740.5
(6) そ の 他 小 売	48	23.4	291.4

〔矢吹町商店街診断報告書〕より



矢吹町商工会館

五、さわやかな

田園都市づくり

への出発



さわやかな田園のまち



(教育長)

小林 重孝



(町議会議長)

井戸沼 俊 願



(助 役)

岩 谷 好



(町 長)

仲 西 藤 次



県会議員 後藤 胖

(昭和 34. 4
昭和 49.12現在)



矢吹町議会議員



県会議員 野木忠房

(昭和 38. 4
昭和 49.12現在)



①



②



④



③



⑦



⑥



⑧

官 公 庁

矢吹町役場	西側40	矢吹2-2111
矢吹町保健所	西側77	矢吹2-3559
矢吹町立総合庁舎	大橋103	矢吹2-2626
矢吹町立総合庁舎	八幡286	矢吹2-2244
矢吹町立総合庁舎	北郷97	矢吹2-2938
矢吹町立総合庁舎	弘法山1	三神7
矢吹町立総合庁舎	一本木446	矢吹2-4111
矢吹町立総合庁舎	八幡28の9	矢吹2-3111
矢吹町立総合庁舎	東郷220	矢吹2-3178
矢吹町立総合庁舎	西郷76	矢吹2-2221
矢吹町立総合庁舎	陣場2	矢吹2-3536
矢吹町立総合庁舎	八幡	矢吹2-2033
矢吹町立総合庁舎	岡谷地8の1	矢吹2-2012
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-3213
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-4080
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-3077
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-3121
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-3115
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2120
矢吹町立総合庁舎	東郷	三神9
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2215
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2205
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2212
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2011
矢吹町立総合庁舎	東郷	三神18
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-4176
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-3131
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-3171
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-3077
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-4141
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2111
矢吹町立総合庁舎	東郷	三神9
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-3217
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-3718
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2218
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2203
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2216
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-9911
矢吹町立総合庁舎	東郷	矢吹2-2456

- ① 矢吹駅（昭和48、8現在）
- ② 矢吹郵便局 明治 5.7.1 郵便取扱所（矢吹村字東側60）明治 8.1.1 五等郵便局
- ③ 中畑郵便局 明治 7. 郵便取扱所 明治16. 廃止（中畑字本村）昭和13.10.26 中畑郵便局
- ④ 三神郵便局 昭和 3.2.1 三神郵便取扱所（三城目15）昭和 7.7.1 三神郵便局
- ⑤ 白河警察署矢吹警察官派出所
- ⑥ 白河警察署矢吹派出所（昭和49年6月以降）
- ⑦ 白河警察署矢吹派出所中畑事務連絡所（昭和49年6月以降）
- ⑧ 白河広域圏矢吹消防署（昭和47年3月設立）



矢吹上水道 稲荷釜（昭和43年9月給水開始）



三神幼稚園（昭和41年4月創立）



中畑幼稚園（昭和40年4月10日創立）



矢吹霊園墓地と火葬場



矢吹保育所（昭和26年4月10日創立）



矢吹幼稚園（昭和28年創立）



聖和幼稚園（昭和36年4月創立）



有線放送本部

町のすがた

(昭和48年4月1日現在)

人 口 15,901人

男 7,763人

女 8,138人

世帯数 3,521戸

面 積 60.79km²



小学校児童の描いた未来の矢吹



矢吹インターチェンジ



東北新幹線 新城トンネル貫通式

(昭和49年5月14日)

矢吹町長と大信村長が握手をかわした。



芝造成団地 三神弥栄 (昭和49年)

5階建の町営住宅

昭和49年5月31日完成。6月15日から入居した。いよいよ矢吹町も高層化時代に入ったようである。





戦後流行した村芝居（軽演劇）

昭和21年(1946)～同23年(1948)ころまで、大関芳江を中心に、演劇や芝居の好きな青年が集まって「大衆演劇会」をつくり、矢吹で月1回公演を行い祭礼などにも出演して拍手喝采を受けた。



戦後矢吹の世相



楽団シルバースターズ 昭和22年(1947)7月27日夜、矢吹町富永会館(旧公衆館)において、軽音楽団シルバースターズ第1回公演が行われた。このころのヒット曲は「帰る船」であった。猪飼徳四郎・藤田留治などが世話人で、約30名の団員がいた。県南地域の各町村を公演して歩いた。



「国破れて山河あり」長い戦争のため、山野は荒廃した。ようやく緑の運動、植林事業が全国的に展開された。戦後いち早く組織された地域青年団も「部落林」の植林が事業の一つとして取上げられた。これは昭和25年(1950)現在の中学校の鳥場山の植林の時の写真である。(中畑青年団)



外人客(狩猟)古川屋旅館前にて(終戦直後)



現在の教会(昭和48年)
矢吹町的場地内にある。



矢吹町日本キリスト教会伝導所(昭和26年7月)

日本キリスト教会伝導所は昭和26年7月、矢吹町旭町に建てられ、建堂式が行われた。資金は35万円、特殊献金(古本販売、バザー等)によった。設立者は関根悦子(矢吹町宇小松)



矢吹町みどり会 さつき展
昭和41年6月19日矢吹町2区公民館において



矢吹町みどり会 菊花展
昭和40年11月3日矢吹町2区公民館において



敬老会 昭和47年9月15日矢吹町体育館にて



芋掘りをする三蘆市の子供たち



松林の中での遊戯

姉妹都市三蘆市と矢吹町との
子供たちの交流のつどい
(昭和四十七年七月五日)



婦人学級(昭和36年)

農村後継者対策とか、婦人を対象とした学級、この外、子供会・育成会・婦人会・青年会・P.T.A.など、それぞれに活発な活動が展開されている。



盆踊り 昭和47年8月20日 矢吹小学校校庭において
矢吹町商工会主催で毎年行われる県南盆踊り大会



赤ちゃんコンクール(毎年1回開催)
昭和48年5月11日第18回コンクール

矢吹中央公民館



昭和48年(1973)3月中央公民館落成。同年5月18日落成式举行。
町の社会教育の場として、たくさんの人々に利用されている。

社会教育研究会



児童作品展示会



くらしの歴史展



昭和47年夏の成人式



昭和四十八年夏の成人式
(中央公民館前にて)

初めての夏の成人式
一月十五日の「成人の日」に行われて
いた式典を昭和四十七年(一九七二)より
夏に行うことになった。

(矢吹小学校校庭において)



若者の祭典



保育所のもちつき
昭和48年から乳児部も附設された。



矢吹原水爆禁止協会協議会被爆者救援運動の
展示風景



石川道路踏切での列車事故 昭和47年2月8
日、大型トラックと特急列車とが衝突した。

昭和48年6月19日、中央公民館において、第1回矢吹町レコードコンサートが開かれ、300人が参集した。また、フォークソングの集まりも、流行に乗って盛んに行われ、「⑤・ごめんなさい」などのグループも生れた。

昭和49年8月1日から10日間、郡山市開成山を中心に、ロックフェスティバル「ワンステップフェスティバル」には、5万人とも10万人ともいわれる若者が集まった。

同年8月17・18日と矢吹町大池公園で行われた若者の祭典には「輪になろう」をスローガンに、2,000人の若者が集まり、フォークダンスやロック、フォーク演奏など、にぎやかにくりひろげられた。

⑤・ごめんなさいの演奏



昭和48年10月1日、矢吹町の祭日に、白河信用金庫矢吹支店前で演奏するニュースタース軽音楽団。



「矢吹タイムス」は戦後まもなく発刊され、地域のマスコミとして親しまれてきた。昭和48年から「世間視」も発刊され、にぎやかになった。



矢吹駅に掲示された「短歌・川柳」の額
矢吹駅を行きかう人々の旅情を慰めてくれる。

昭和(戦後)の文芸

戦後野木鶴石の跡を継いだ野木香青(香青は戦時中殉国)が、俳誌「浜」により愛好者を集めて句会を開いたが(昭和11)、長続きしなかった。昭和三十一年二月、女流俳句会「草の芽会」が誕生したが、これは現在まで十数年継続している。

短歌も愛好者が多く、昭和三十九年矢吹短歌会が発足、同年橋本伸の歌集「鏡と臥床」、同四十一年庄司さんの「土雛」(昭和四十三年六月水戸守伊の「松房池」、同年九月円谷操の「とめそで」と、大々に歌集を出版して気を吐いている。

矢吹町の詩人で忘れられない人に三城目出身の大滝清雄(徳島)がいる。大滝は昭和二年寺田弘と詩誌「中堅詩人」を出して以来、今日まで詩誌や詩集を多く出し、県内はもちろん中央詩壇で活躍している。戦後は菊地貞三(宮城)、瀬谷耕作(佐賀)らと盛んに詩作をしていたが、まもなく菊地・瀬谷が矢吹を去り、大滝も昭和二十八年詩集「水地」を出すと同時に足利に去ったが、大滝らの詩いた詩作は、若い人々に受け継がれ、若い詩人菊地啓二が現われ、若いグループの詩誌「の」の発刊(昭和28年)となり、創作・詩・短歌と、広い分野で活躍している篠田耕郎など、幾多の詩人が現在活躍している。

川柳を作る人々も多い。昭和二十二年春川柳誌「松笠会」が発足して以来、まとまって川柳作りが盛んになり、最近では矢吹駅に川柳の額を掲示して旅情を慰めたり(昭和21)、根本岐方の俳諧川柳集(昭和31)、北畠遊坊の「なの花」(昭和36)、熊田桜崖の「霧笛」(昭和42)などの句集の発刊など精力的な活動をしている。これら矢吹の詩・短歌・俳句・川柳・俳諧・小説・評論などの会員を一同に集めて、矢吹ペンクラブが創立(昭和41年11月)され、同年十一月機関誌「矢吹文芸」を創刊したが、これによって各文芸文化が力強く発展していくことであろう。



大滝清雄の詩集「三光鳥の歌」
昭和二十五年第三回福島県文学賞
詩部門受賞。



「草の芽会」の人々 月見句会の当日(昭和34年)



根本岐方の
俳諧川柳集「なの花」
(昭和三十八年八月)



北畠遊坊の
俳諧川柳集「なの花」
(昭和三十六年一月)

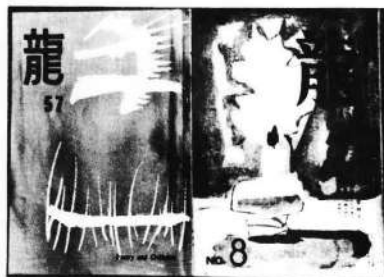


川柳誌「松笠」



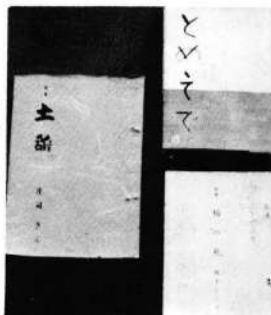
- ④ 熊田桜崖の川柳句集「霧笛」昭和42年9月
- ⑤ 鈴木白風俳句集「あまの川」昭和42年11月
- ⑥ 熊田桜崖の川柳句集「年輪」昭和46年9月

「龍」 昭和23年10月、大滝清雄によって創刊された「龍」は、当時県内の主だった詩人を集め、矢吹町を中心に、第12号まで出して活動した。大滝の足利市転勤と同時に発行所も同所に移ったが、現在もお意気盛んである。矢吹町に関係のある同誌の人々は、菊地啓三・瀬谷耕作・菊地啓二・星圭之助などである。戦後の混乱期に、矢吹中学校で教鞭を執りながら、中央とのパイプ役を果たし、後続の教え子たちに詩の種を播いて行った大滝清雄の功績は大きい。



大滝清雄・瀬谷耕作・菊地啓二・小川琢士らは中央詩壇で活躍している。矢吹町の詩界のレベルは高い。

円谷操の歌集「とめそで」
昭和四十二年九月
橋本とくこの歌集「稲の花」
昭和四十四年九月
庄司きんの歌集「土雛」
昭和四十一年



「岩代文学」 昭和33年、当時矢吹駅助役であった先崎金明によって岩代文学会が誕生し、同年7月「岩代文学」創刊号が発刊された。4号以後は、先崎の上京と同時に東京で発刊され、さらに14号からは「文苑」と誌名を改めた。八巻幸雄・円谷敏郎・栗林孝夫・泉川光・小川琢士・菊地啓二などが書いているが、とりわけ「岩代文学叢書1」として鈴木歌子が鈴木露のペンネームで、小説「ぼっかりさん」を出しているのが収載である。



「山ばな」と「北馬」は、共に幕田耕郎の創刊になり、菊地啓二が参加した。35年3月31日発行の「山ばな」第1号には、幕田の創作「高倉新田」、菊地の詩群「現代詩のひとつのシンフォニー」が載っている。「山ばな」「北馬」とともに1号で休刊状態にあるのは惜しい。またこの期間、幕田は文芸誌「北陽芸術」、詩誌「エリヤ」などに、菊地は詩誌「日本未来派」などに作品を書いている。

サークル「手」の会
昭和三十年十月創刊号発刊。頒布料三〇円。二〇ペーシ活版印刷で、当時としては立派なものであり、三号まで出している。小川琢士・菊地啓二・菊地啓郎らが中心になっていた。会員二〇名。



詩誌「の」は、昭和30年ころから菅野昌和・長尾直幸・星圭之助らによって創刊され、現在までに21号を数える。菊地啓二・幕田耕郎・小川琢士・加藤たけしらも同人となり、全国各地の詩誌と交流があり、今後の活躍が期待されている。



加藤たけしの「はくにはさっぱりわからない」で昭和46年第24回福島県文学新小説部門受賞した。詩誌「の」第20号に第二作小説「他人の手」を発表している。



小川琢士の詩集「夢・現実」
昭和四十八年度第二十六回福島県
文学賞詩部門受賞

大 滝 清 雄

昭和25年第3回福島県文学賞詩部門文学
賞受賞 受賞作品「三光鳥の歌」

菊 地 啓 二

昭和35年第13回福島県文学賞詩部門準賞
受賞 受賞作品「瓶」

庄 司 きん

昭和41年第1回高見橋吉賞(短歌)準賞受
賞 受賞作品「土曜」

星 圭 之 助

昭和42年第20回福島県文学賞詩部門奨励
賞受賞 受賞作品「夜想曲」
昭和46年度第24回福島県文学賞詩部門準賞
受賞 受賞作品「大地の歌」

橋 本 とく子

昭和44年第22回福島県文学賞短歌部門奨
励賞受賞 受賞作品「稲の花」

加 藤 た け し

昭和46年第24回福島県文学賞受賞小説部門文
学賞受賞 受賞作品「はくにはさっぱり
わからない」

熊 田 桜 崖

昭和46年第1回大谷五花村賞受賞
川柳集「年輪」

小 川 琢 士

昭和48年第26回福島県文学賞詩部門文学賞受
賞 受賞作品「夢・現実」



矢吹ペンクラブ受賞者記念祝賀会
(昭和49年3月2日)



矢吹文芸

第 1 号

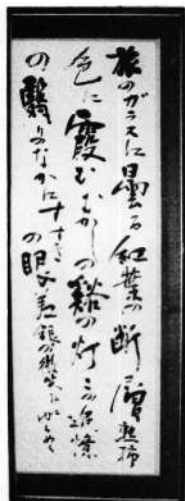


福島県西白河郡矢吹町
矢吹ペンクラブ発行
昭和42年3月

矢吹ペンクラブ『やぶき文芸』

戦後の昭和24年1月、虚脱の世相に對峙して立ち上った風刺とユーモアの川柳誌は、故根本岐方(儀一)を会長とし、故野崎久ン坊ら8名で、川柳「松笠会」を結成した。

その後続いて出来た詩の会(菊地啓二主宰)、俳句会(会田キン)、短歌会(幕田耕郎・庄司きん)、川柳・俳諧会(熊田桜崖)など、各部会の作品を年一回まとめた総合誌『やぶき文芸』が昭和42年11月創刊し、48年第7号を発行した(136ページ)。会長は鈴木白風、編集事務局は幕田耕郎・小川琢士、発行所は矢吹町教育委員会である。



第6回地方巡回美術展の書の部で展示された「紅葉の溪谷」(荒明陽風 矢吹町一本木)



第6回地方巡回美術展の洋画の部で展示された「のこる」(関根康雄 矢吹町三城目天開)



昭和49年度第6回地方巡回美術展

地方のすぐれ文化を紹介するとともに、地方文化の創造と保護をはかるために、福島県において、昭和44年度から実施されているもので、49年度には矢吹町で開催された。

このときの作品は「第28回県総合美術展」のなかから秀作60点を選び展覧に供したものであった。



肩籠 昭和43年6月発行/百年桜 昭和44年6月発行/御指南様 昭和45年6月発行/肩籠第4集「隣のくに中国」昭和48年12月発行 著者 三城目 相楽真一

昭和39年11月には、矢吹町文化財専門委員会によって『矢吹町のおいたち』が発行された。内容は立派なもので、当時の文化財専門委員各位の業績は大きく、高く評価されている。

また、相楽真一は随筆集「肩籠」「百年桜」「御指南さま」などを出した。役場の思い出や三城目地域の地誌などにふれ、また、戦前に中国大陸などに生活したことなどユニークなものを綴った好エッセイであった。49年「肩籠」第4集も出し、健筆をふるっている。

おくのほそ道（町内名所・旧蹟）



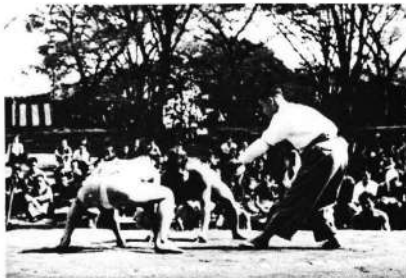
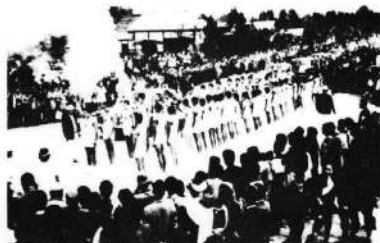
泉川沿岸遺跡の調査報告会

昭和48年4月28日国神館跡にて、泉州沿岸遺跡の調査報告会と観桜会を行った。泉州沿岸遺跡の調査は、昭和45年から48年にかけて行われ、その調査担当者には、市立須賀川博物館主任永山浩造があつた。またこの発掘調査には延1000人以上の人が協力された。

国神館跡の保存に協力された方々をはじめ、60余名の方々が参加した。国神館跡は48年4月1日町指定文化財指定第1号となった。写真はあいさつをする小林重孝教育長。



昭和(戦後)のスポーツ



第10回国民体育大会が昭和21年(1946)に京都・奈良を中心に開催された。本県代表として薄葉(重)・井戸沼(俊)両選手が出場した。写真は取組み直前で、後向きが井戸沼選手である。



東京オリンピック聖火リレー
(昭和三十九年九月三十日)



野球 現在25の野球協会登録チームがあり、500人の野球協会登録会員がいる。

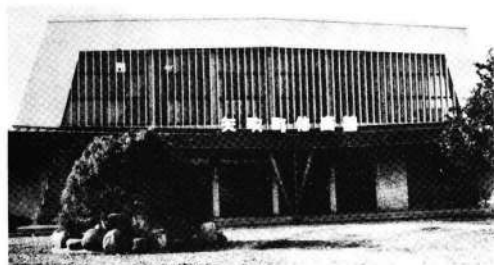


町民水泳大会(昭和47年)

戦後まもない昭和二十三年十一月、第三回国民体育大会には、陸上競技の佐久間博選手が活躍した。同選手は第三回から福島県を開催地(宮城・山形県と共催)とする第七回国民体育大会まで、連続して出場した。第六回国民体育大会において、陸上二百メートル第六位入賞した。昭和三十五年十二月、第一回全国高校駅伝(大阪府)に、本県代表として、徳永善伸・有我亥一選手が出場、第二回には有我選手が、第三回には徳永登・有我選手が、第四回には故曲山敬吉選手が出場して活躍した。有我選手は、国体・教員の部にも出場している。青東駅伝にも徳永登・熊田勇選手がそれぞれ出場した。昭和三十七年七月、全国高校水上大会(山口県)四〇〇、八〇〇メートル自由型に安田美佐子選手が出場した。同年八月、全国高校陸上競技大会(大分県)走り高跳に、加藤登美子(旧姓芳賀)選手が出場それぞれ活躍した。昭和四十四年第二四回国体(長崎県)、第二五回国体(岩手県)と二年連続して奈良章選手は、剣道年令別五十代に出場して活躍した。昭和四十一年八月、全国高校軟式野球大会(大阪府)同年十月の国体・大分県に、蛭田誠一は岩瀬農業高等学校チームの投手として出場し、相当な活躍をした。



矢吹町民体育大会(昭和38年)
矢吹小学校々庭において行われた仮装行列



町民体育館

昭和37年10月、矢吹町町民体育館が新築落成した。以後、矢吹町の屋内体育館として活用され、なかでも家庭バレーボールの普及など、町民の体育館として大きく活用されている。また、大池公園に球場があり、旧矢吹中学校跡地にも町民のための総合的な体育施設の建設が着々と進められている。



札幌オリンピック聖火継ぎの練習風景（昭和47年1月9日）



コ・イ・バンダカーの峰々



ヒマラヤ登山遠征

昭和46年8月、矢吹町の仲西昌寛・溝井力男がヒマラヤ遠征隊員として、アフガニスタンのコ・イ・バンダガー峰(6,800m)の登頂に成功した。この功勞によって、46年度福島県体育功勞賞を受賞した。



ソフトボール大会（矢吹体育祭）



家庭バレーボール大会（矢吹町体育祭）



剣道練習風景

昭和四十二年に、町の教育委員会が剣道教室を開設し、防具は町並びに有志の後援で七〇組を購入し、各校に配布して練習している。月に一回、町立体育館で合同の練習を行っている。



卓球大会（矢吹町体育祭）